



# BEA AquaLogic™ Interaction Collaboration

管理者用ガイド

バージョン 4.2™

ドキュメントの改訂：2006 年 9 月 19 日



# Copyright

Copyright © 1995-2006 BEA Systems, Inc. All Rights Reserved.

## Restricted Rights Legend

This software is protected by copyright, and may be protected by patent laws. No copying or other use of this software is permitted unless you have entered into a license agreement with BEA authorizing such use. This document is protected by copyright and may not be copied photocopied, reproduced, translated, or reduced to any electronic medium or machine readable form, in whole or in part, without prior consent, in writing, from BEA Systems, Inc.

Information in this document is subject to change without notice and does not represent a commitment on the part of BEA Systems. THE DOCUMENTATION IS PROVIDED “AS IS” WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND INCLUDING WITHOUT LIMITATION, ANY WARRANTY OF MERCHANTABILITY OR FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. FURTHER, BEA SYSTEMS DOES NOT WARRANT, GUARANTEE, OR MAKE ANY REPRESENTATIONS REGARDING THE USE, OR THE RESULTS OF THE USE, OF THE DOCUMENT IN TERMS OF CORRECTNESS, ACCURACY, RELIABILITY, OR OTHERWISE.

## Trademarks and Service Marks

Copyright © 1995-2005 BEA Systems, Inc. All Rights Reserved. BEA, BEA JRockit, BEA WebLogic Portal, BEA WebLogic Server, BEA WebLogic Workshop, Built on BEA, Jolt, JoltBeans, SteelThread, Top End, Tuxedo, and WebLogic are registered trademarks of BEA Systems, Inc. BEA AquaLogic, BEA AquaLogic Data Services Platform, BEA AquaLogic Enterprise Security, BEA AquaLogic Service Bus, BEA AquaLogic Service Registry, BEA Builder, BEA Campaign Manager for WebLogic, BEA eLink, BEA Liquid Data for WebLogic, BEA Manager, BEA MessageQ, BEA WebLogic Commerce Server, BEA WebLogic Communications Platform, BEA WebLogic Enterprise, BEA WebLogic Enterprise Platform, BEA WebLogic Enterprise Security, BEA WebLogic Express, BEA WebLogic Integration, BEA WebLogic Java Adapter for Mainframe, BEA WebLogic JDriver, BEA WebLogic Log Central, BEA WebLogic Network Gatekeeper, BEA WebLogic Personalization Server, BEA WebLogic Personal Messaging API, BEA WebLogic Platform, BEA WebLogic Portlets for Groupware Integration, BEA WebLogic Server Process Edition, BEA WebLogic SIP Server, BEA WebLogic WorkGroup Edition, Dev2Dev, Liquid Computing, and Think Liquid are trademarks of BEA Systems, Inc. BEA Mission Critical Support, BEA Mission Critical Support Continuum, and BEA SOA Self Assessment are service marks of BEA Systems, Inc.

All other names and marks are property of their respective owners.



# 目次

## 1. ようこそ

記述方法 .....	1-2
BEA のドキュメントおよびリソース .....	1-3

## 2. Collaboration の概要

Collaboration について .....	2-1
AquaLogic Interaction のコンポーネント .....	2-2
ポータル .....	2-2
ポータル データベースと Collaboration データベース .....	2-2
Image Service .....	2-3
通知サービス .....	2-3
Automation Service .....	2-3
Search Service .....	2-4
ドキュメント リポジトリ サービス .....	2-4
Collaboration ウェブ サービス API .....	2-4
Collaboration の基本 .....	2-5
Collaboration プロジェクト .....	2-5
プロジェクト エクスプローラ .....	2-5
Collaboration のポートレット .....	2-5
コミュニティ ポートレット .....	2-6
マイ ページ ポートレット .....	2-7
Collaboration プロファイル ポートレット .....	2-7
Collaboration の高度な機能 .....	2-8

## 3. Collaboration の管理

Collaboration 管理ユーティリティでの作業 .....	3-1
Collaboration 管理ユーティリティへのアクセス .....	3-2
診断テストの実行 .....	3-2

その他の設定 .....	3-4
最大プロジェクト サイズの指定 .....	3-4
個人プロジェクトを有効にする方法 .....	3-5
マイ ページに追加できるようにする方法 .....	3-6
ポータル グループ通知を有効にする方法 .....	3-6
使用していないプロジェクト フォルダを非表示にする方法 .....	3-6
WebDAV を有効にする方法 .....	3-6
ウェブ編集を有効にする方法 .....	3-6
Bulk Upload (一括アップロード) 機能を有効にする方法 .....	3-7
Bulk Upload 機能を使用するためのクライアントの必要条件 .....	3-8
Zip ダウンロードを有効にする方法 .....	3-8
ドキュメント バージョン番号の設定 .....	3-8
1 ファイルあたりのアップロード サイズの制限 .....	3-9
ディスクッション メッセージ サイズの制限 .....	3-9
休日の作成、編集および削除 .....	3-9
発行に関する Collaboration の設定 .....	3-9
グループウェア サーバーの設定 .....	3-10
グループウェア サーバーのテスト .....	3-12
Collaboration 通知設定の変更 .....	3-13
Search Service での処理 .....	3-14
Search Service の状態の表示 .....	3-14
検索コレクションの再作成 .....	3-14
Collaboration へのポータル アクセスの付与 .....	3-15
所有ポータルの変更 .....	3-15
ナレッジディレクトリにファイルをインポートするための Collaboration の設定 .....	3-16
ファイルをインポートするためのコンテンツ クローラの設定 .....	3-16
Collaboration のドキュメント プロパティの設定 .....	3-18
Collaboration のセキュリティの処理 .....	3-19
役割 .....	3-19
アクセス レベル .....	3-20
機能エリアに対するアクセス レベル .....	3-21
アクティビティ権 .....	3-22
ユーザーへのアクティビティ権の付与 .....	3-22

デフォルトのプロジェクト セキュリティ .....	3-23
マイ アカウント設定での処理 .....	3-23
Collaboration の設定ファイルの処理 .....	3-25
Collaboration のログ機能の設定 .....	3-28
Collaboration のログ機能を使用するために Logging Utilities を設定する方法 ..	3-28
<openlog enabled> ノード .....	3-29
<serverName value> ノード .....	3-29
<restrictToLocalMachine value> ノード .....	3-29
ALI Logging Spy で Collaboration メッセージを表示するための設定方法 ....	3-30
フィルタの設定とデバッグ .....	3-32
Collaboration のバックアップと復元 .....	3-33
Collaboration のバックアップ .....	3-33
Collaboration の復元 .....	3-33

## 4. プロジェクトの管理

プロジェクトの概要 .....	4-2
プロジェクト エクスプローラの概要 .....	4-2
プロジェクトのアプリケーション ビューの概要 .....	4-5
プロジェクトの作成および管理 .....	4-6
プロジェクトの作成 .....	4-6
新しいプロジェクトの作成 .....	4-6
役割と権限の設定 .....	4-7
プロジェクトの機能エリアの選択 .....	4-7
プロジェクトの設定 .....	4-8
プロジェクト エクスプローラでのプロジェクトの管理 .....	4-8
プロジェクトのプロパティの編集 .....	4-9
プロジェクト フォルダの作成 .....	4-10
プロジェクト フォルダへのプロジェクトの移動 .....	4-11
プロジェクトおよびプロジェクト フォルダの削除 .....	4-11
ごみ箱用のシステム フォルダからのプロジェクトの削除と削除の 取り消し .....	4-12
プロジェクトへのアクセスの設定 .....	4-13
プロジェクトへのユーザーの追加 .....	4-13
役割のデフォルト権限の変更 .....	4-14

プロジェクトからのユーザーの削除.....	4-14
プロジェクト テンプレートの使用方法.....	4-15
プロジェクト テンプレートの作成.....	4-15
プロジェクトのテンプレート基準日の設定.....	4-16
プロジェクト テンプレートのセキュリティの定義.....	4-17
プロジェクトのアーカイブおよびリストア .....	4-18
プロジェクトのアーカイブ .....	4-18
[アーカイブされたプロジェクト] フォルダからのプロジェクトのリストア ..	4-19
プロジェクトのエクスポート.....	4-19

## 5. Collaboration の統合

Collaboration とデスクトップの統合 .....	5-2
WebDAV プロトコルの概要.....	5-2
ウェブ フォルダの設定 .....	5-2
アクティビティ権の追加 .....	5-3
ウェブ フォルダと IIS の使用 .....	5-3
Collaboration Office ツール アドイン インストーラをエンド ユーザーが	
使用できるようにする方法 .....	5-4
ウェブ フォルダのマッピング .....	5-5
ウェブ フォルダの設定ファイルでの設定.....	5-7
ウェブ編集の設定方法.....	5-9
ウェブ編集と IIS の使用.....	5-9
ウェブ編集の設定ファイルでの設定.....	5-10
config.xml .....	5-10
filetypes.xml .....	5-13
Collaboration とグループウェアの統合 .....	5-13
グループウェアの統合の基本タスクの実行.....	5-14
自動同期の設定.....	5-17
添付ファイルのサイズ制限 .....	5-18
グループウェアの統合のための設定ファイルでの設定 .....	5-18
Collaboration とインスタント メッセージ機能の統合 .....	5-20
[IM Handle] プロパティの設定 .....	5-21
Microsoft Project のインポートの設定 .....	5-23
プロジェクトの電子メール機能の設定 .....	5-24



基本設定の実行 .....	5-24
例 : Collaboration への電子メールのリレー .....	5-26
前提条件 .....	5-26
Sendmail の設定 .....	5-27
Collaboration の電子メールのエラーの処理 .....	5-29

## A. 設定ファイルの処理

Collaboration および通知サービスの設定ファイルの概要 .....	A-2
config.xml .....	A-5
documentTemplates.xml .....	A-16
filetypes.xml .....	A-17
database.xml .....	A-20



# ようこそ

このマニュアルは BEA AquaLogic Interaction Collaboration (「Collaboration」) 用です。対象者は、ポータルシステムの維持、ポータルへの情報の導入、ユーザーがプロジェクトを共有するための場所の作成、プロジェクトの管理、およびポータルの使い易さを改善するためのその他の作業を受け持つポータル管理者です。

**注意：**「BEA AquaLogic Interaction Collaboration」の旧称は「Plumtree Collaboration」です。また、「BEA AquaLogic Interaction」の旧称は、バージョン 6.x では「Plumtree Foundation」、バージョン 5.0 x では「Plumtree Corporate Portal ( プラムツリー コーポレート ポータル )」です。一部のポータルオブジェクトの名前は、以前の Plumtree 名のままになっています。

# 記述方法

このマニュアルでは、下記の記述方法を使用します。

表 1-1 記述方法

項目	記述方法	例
<ul style="list-style-type: none"><li>ファイル名</li><li>フォルダ名</li><li>画面要素</li></ul>	太字	<ul style="list-style-type: none"><li><b>Procedures.doc</b> をポータルにアップロードします。</li><li><b>General</b> フォルダを開きます。</li><li>変更内容を保存するには、[ <b>変更を適用</b> ] をクリックします。</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>入力するテキスト</li></ul>	コンピュータ フォント	<ul style="list-style-type: none"><li>コミュニティの名前に Marketing と入力します。</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>入力する変数</li></ul>	コンピュータ フォント、斜め体	<ul style="list-style-type: none"><li>ポートレット サーバーの基本 URL を入力してください。 例 : http://my_computer/</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>ポータル オブジェクト名の例</li></ul>	斜め体	<ul style="list-style-type: none"><li>図 5 のナレッジディレクトリの例は、<i>Human Resources</i> フォルダです。</li></ul>

# BEA のドキュメントおよびリソース

この節では、BEA が提供しているドキュメントとリソースについて説明します。

**表 1-2 BEA のドキュメントおよびリソース ( 4 の 1 )**

リソース名	説明
インストール ガイド	Collaboration 管理者用のマニュアルです。Collaboration のインストールおよびアップグレード方法について説明しています。 リリース パッケージおよび <a href="http://edocs.beasys.co.jp/e-docs">edocs.beasys.co.jp/e-docs</a> から電子形式 (PDF) で入手できます。
リリース ノート	Collaboration 管理者用のファイルです。当該リリースに含まれている新しい機能や既知の問題に関する情報が含まれています。 <a href="http://edocs.beasys.co.jp/e-docs/">edocs.beasys.co.jp/e-docs/</a> から電子形式 (HTML) で入手できます。
開発者用ガイド、記事、API 関連資料、ブログ、ニュースグループ、およびサンプル コード	これらの開発者用リソースは、BEA dev2dev サイト ( <a href="http://www.beasys.co.jp/dev2dev/">www.beasys.co.jp/dev2dev/</a> ) から入手できます。 AquaLogic User Interaction を使用してカスタム アプリケーションを構築する方法や、AquaLogic User Interaction 製品およびその機能をカスタマイズする方法について説明しています。
導入ガイド	ビジネス アナリストやシステム管理者向けの資料です。 BEA AquaLogic User Interaction の導入計画の策定方法について説明しています。 <a href="http://edocs.beasys.co.jp/e-docs/">edocs.beasys.co.jp/e-docs/</a> から電子形式 (PDF) で入手できます。

表 1-2 BEA のドキュメントおよびリソース ( 4 の 2 )


リソース名	説明
オンライン ヘルプ	<p>オンライン ヘルプは、Collaboration のすべてのレベルのユーザーが利用できます。Collaboration のユーザー インタフェースの説明、および Collaboration で作業を行うための詳細手順が記載されています。</p> <p>オンライン ヘルプにアクセスするには、ポートレットまたはポータル バナーの右上端にある  [ ヘルプ ] をクリックしてください。</p>

表 1-2 BEA のドキュメントおよびリソース ( 4 の 3 )

リソース名	説明
AquaLogic User Interaction Support Center	<p data-bbox="498 392 1135 652">AquaLogic User Interaction Support Center は、AquaLogic User Interaction 製品に関する技術情報の総合的なリポジトリです。Support Center では、製品やドキュメントへのアクセス、ナレッジベースの記事の検索、最新のニュースや情報の参照、サポート コミュニティへの参加、トレーニングの受講、AquaLogic User Interaction 関連のニーズに適合するツールの入手を行うことができます。Support Center には次のコミュニティが含まれています。</p> <p data-bbox="498 663 780 690"><b>Technical Support Center</b></p> <p data-bbox="498 701 1135 796">サポート問題や機能要求の提出および追跡、ナレッジベースの検索、資料の入手、サービス パックおよびホットフィックスのダウンロード等を行うことができます。</p> <p data-bbox="498 807 663 835"><b>News &amp; Events</b></p> <p data-bbox="498 845 1135 968">News &amp; Events Center は、導入の展開に関する情報を提供します。Super User Group ページでは、他の開発者と情報交換したり、最新のミーティング内容を表示したりできます。</p> <p data-bbox="498 979 666 1006"><b>Product Center</b></p> <p data-bbox="498 1017 1135 1105">製品のダウンロード、リリース ノートの参照、最新の製品資料の入手、インターオペラビリティに関する情報の入手などが可能です。</p> <p data-bbox="498 1116 690 1144"><b>Education Center</b></p> <p data-bbox="498 1154 1135 1242">トレーニング コースに関する情報の入手、トレーニング クレジットの購入、受講するための登録を行うことができます。</p> <p data-bbox="498 1253 1135 1381">次のサイトにログインしても Support Center が表示されない場合は、適切なアクセス権を得るために <a href="mailto:support-alui.jp@bea.com">support-alui.jp@bea.com</a> にお問い合わせください。 <a href="http://portal.plumtree.com">http://portal.plumtree.com</a></p>

表 1-2 BEA のドキュメントおよびリソース ( 4 の 4 )

リソース名	説明
www.beasys.co.jp/dev2dev/	開発者用のツールや資料をダウンロードしたり、開発プロジェクトに対してサポートを得たり、BEA の dev2dev ニュースグループを通じて他の開発者と連絡を取ることができます。
技術サポート	上記のリソースを使用しても問題を解決できない場合は、BEA 技術サポートにお問い合わせください。弊社のスタッフが、24 時間 365 日体制でお客様の技術サポートニーズに対応致します。 電子メール : <a href="mailto:support-alui.jp@bea.com">support-alui.jp@bea.com</a> 電話番号 : 米国およびカナダ +1 415.263.1696 または +1 866.262.PLUM (7586) アジア パシフィック +61 2.9931.7822 ヨーロッパおよび英国 +44 (0) 1628 589124 フランス +33 1.46.91.86.79 シンガポール +65 6832.7747



# Collaboration の概要

この章では、Collaboration の基本概要を説明します。また、Collaboration のコンポーネントについて説明し、これらのコンポーネントがポータルとどのように相互作用するかについて説明します。この章には次の節が含まれています。

- [Collaboration について](#)
- [AquaLogic Interaction のコンポーネント](#)
- [Collaboration の基本](#)

## Collaboration について

Collaboration は BEA AquaLogic Interaction のコンポーネントです。Collaboration は、AquaLogic Interaction に直接統合されており、ポータルのセキュリティ、検索、およびその他の機能を提供します。Collaboration はこの機能性を拡張し、ユーザー同士が連携して一緒に作業を行うことができるオンライン ワークスペースを提供します。

Collaboration が提供する主な機能を以下に示します。

- ドキュメント管理およびライブラリ サービス
- 通知、購読、および警告
- プロジェクト管理およびプロセス管理

- タスクの割り当ておよびカレンダー
- ディスカッション スレッド

# AquaLogic Interaction のコンポーネント

この節では、Collaboration で使用される AquaLogic Interaction のコンポーネントについて説明します。

## ポータル

ポータルは、エンド ユーザーに対してポータル ページおよびコンテンツを提供します。

ポータルは、エンド ユーザーがマイ ページ、コミュニティ ページ、ナレッジ ディレクトリ、または検索機能を通じてポータルのコンテンツにアクセスできるようにします。また、ポータルは、ポートレットの基本設定やコミュニティの管理といった管理作業も行えるようにします。

## ポータル データベースと Collaboration データベース

ポータル データベースは、ポータルが使用するデータを格納します。このデータベースには、ユーザー プロファイル、セキュリティ、および全てのポータル オブジェクトに関連する情報が含まれています。ポータル データベースは、ポータルを通して使用できるドキュメントを格納していません。ソース ドキュメントは、元の場所から移動されることはありません。

Collaboration データベースは、Collaboration が使用するデータを格納します。このデータベースには、カレンダー、タスク、ディスカッション、および購読に関連する情報が含まれています。また、Collaboration が使用するドキュメントに関する情報も含まれています。ただし、Collaboration データベースは、これらのドキュメントを格納していません。これらのドキュメントは、ドキュメント リポジトリ サービスに格納されます。

## Image Service

Image Service は、ポータル システムで使用されるイメージおよびその他の静的コンテンツを配信します。1 つの Image Service に、複数の管理用ポータルおよびポータルを接続することができます。また、各管理用ポータルまたはポータルを専用の Image Service に接続することもできます。更に、これらの構成を組み合わせることも可能です。

Image Service をポータルや Collaboration とは別のコンピュータに導入すると、ユーザーのブラウザがイメージを要求するたびにセキュリティ情報を送信する必要がなくなり、ポータル システムの効率を大幅に向上させることができます。

## 通知サービス

通知サービスは、プロジェクトからプロジェクト ユーザーに電子メール通知を生成および送信し、Collaboration のジョブ サーバーとして機能します。これらのジョブはポータル ジョブとは異なり、Automation Service を使用して実行されます。ジョブには、概要通知、コミュニティの役割の同期、およびごみ箱の管理が含まれますが、これらに限定されません。すべてのジョブは毎日実行され、キューで管理されます。ジョブは完了するたびにキューに再度追加されます。

通知サービスは、プロジェクトの電子メール機能を使用するユーザーに対しては必要ありません。ただし、通知サービスが実行されていない場合、プロジェクトの電子メール機能の有用性は低くなります。プロジェクトの電子メール機能の詳細については、[5-24 ページ](#)の「プロジェクトの電子メール機能の設定」を参照してください。

## Automation Service

Automation Service は、ジョブおよびその他の自動化されたポータル タスクを実行します。Automation Service は、ナレッジ ディレクトリに対してドキュメントをクロールするためのタスク、グループやユーザーを外部の認証元と同期化するためのタスク、検索コレクションを維持するためのタスクなどを実行するためのジョブを実行します。

# Search Service

Search Service は、検索エンジン、およびポータルオブジェクト (ドキュメント、コミュニティ、ポートレット等) に対するテキストおよびメタデータのインデックスが含まれている検索コレクションを収容しています。ポータルで多数のドキュメントがインデックスされている場合、検索インデックスが非常に大きくなる場合があります。場合によって、このファイルのコレクションは、ポータルでインデックスされている全ドキュメントの ASCII 表現の合計と同じ大きさになることがあります。通常このようなことはありませんが、検索インデックスを収容するコンピュータには、このような量を処理するための十分なディスクスペースが必要です。ポータルの中のドキュメント数が増えるにつれ、固有の単語 (未だインデックスに含まれていない単語) の数が減ります。したがって、ポータルの中のドキュメント数が増えるにつれ、インデックスの成長が弱まります。

## ドキュメント リポジトリ サービス

ドキュメント リポジトリ サービスには、ブランドエンジンが使用するイメージ、Collaboration または Publisher にアップロードされたドキュメント等、ポータルシステムにアップロードされたコンテンツが格納されます。

## Collaboration ウェブ サービス API

このコンポーネントによって、開発者は、リモート ポートレットおよびその他のエンタープライズアプリケーションによってトリガーされたイベントに対応して、Collaboration 内のオブジェクトを作成、変更、および削除することが可能になります。Collaboration ウェブ サービス API を使用するには、AquaLogic Interaction 開発キット (IDK) をインストールする必要があります。資料、サンプルコード等、IDK に関する詳細については、Developer Center を参照してください。

# Collaboration の基本

この節では、Collaboration の主要機能を説明します。

## Collaboration プロジェクト

プロジェクトは、Collaboration の主要な要素です。プロジェクトには、ユーザー間の共同作業を円滑にするタスクおよびドキュメントが含まれます。プロジェクトは、次の機能エリアから構成されます。

- カレンダー
- タスク
- ドキュメント
- ディスカッション

## プロジェクト エクスプローラ

プロジェクト エクスプローラによって、システム管理者およびプロジェクト リーダーは、単一のウィンドウから複数のプロジェクトを管理することができます。

## Collaboration のポートレット

Collaboration には、プロジェクトおよびプロジェクト エクスプローラへのアクセスを可能にするポートレットのセットが含まれています。以下の節では、2 つのタイプのポートレットについて説明します。

## コミュニティ ポートレット

これらのポートレットはコミュニティに配置され、複数のプロジェクトに対するグループのアクセスを可能にし、複数のプロジェクトまたはプロジェクト内の複数の機能エリアへのアクセスを提供します。

表 2-1 コミュニティ ポートレットの種類

ポートレット名	説明
コミュニティ アナウンス	プロジェクトに関する重要なアナウンスを表示します。
コミュニティ カレンダー	プロジェクトのイベント、タスク、およびマイルストーンを表示します。
コミュニティ ディスカッション	プロジェクトのディスカッションを表示し、これによって、プロジェクトユーザー間のオンラインコミュニケーションが促進されます。
コミュニティ ドキュメント	プロジェクトに関連付けられたドキュメントを表示します。
コミュニティ プロジェクト	コミュニティに割り当てられたすべてのプロジェクトをユーザーが参照できます。
コミュニティ タスク	プロジェクトのタスクおよびタスク リストを表示します。
プロジェクト検索	ユーザーが、プロジェクト内のテキスト ドキュメントのコンテンツおよびオブジェクト プロパティを検索できるようにします。

プロジェクト内のプロジェクトおよび機能エリアへのユーザー アクセスは、各ユーザーに割り当てられる役割およびアクセス レベルに依存します。機能エリア内のセキュリティに関しては、[3-21 ページの「機能エリアに対するアクセス レベル」](#)を参照してください。

## マイ ページ ポートレット

個々のユーザーは、これらのポートレットをマイ ページに追加することができます。

**表 2-2 マイ ページ ポートレットの種類**

ポートレット名	説明
マイ アナウンス	ユーザーが、プロジェクトのアナウンスを表示できるようにします。
マイ カレンダー	ユーザーが、異なるプロジェクトからカレンダー項目を追加できるようにします。
マイ ディスカッション	選択されたディスカッションを表示できるようにします。
マイ ドキュメント	選択されたプロジェクトからのドキュメントを表示します。
マイ プロジェクト検索	ユーザーが、複数のプロジェクトのアイテムを検索できるようにします。
マイ プロジェクト	選択されたプロジェクトのリストを表示します。
マイ タスク	ユーザーに割り当てられた全てのタスクを表示します。

## Collaboration プロファイル ポートレット

Collaboration プロファイル ポートレットは、Collaboration の機能を追加するために、ユーザー プロファイルのページに追加します。コミュニティまたはマイ ページには追加できません。

# Collaboration の高度な機能

以下の高度な機能によって、Windows デスクトップおよびその他の一般的なアプリケーションで、Collaboration を使用できるようになります。

表 2-3 Collaboration の高度な機能の説明

高度な機能	説明
グループウェアの統合	Microsoft Exchange または Lotus Notes のカレンダーを Collaboration に統合するために、バックエンドのグループウェア サーバーを設定およびテストできるようにします。
デスクトップの統合	ユーザーが、Collaboration を Windows デスクトップに統合できるようにします。
Microsoft Project からのインポート	Microsoft Project のファイルを Collaboration のカレンダーにインポートできるようにします。

これらの機能の使用方法および設定に関する詳細については、[5-1 ページの「Collaboration の統合」](#)を参照してください。



# Collaboration の管理

この章では、Collaboration を管理および保守するために必要な作業について説明します。  
この章には次の節が含まれています。

- Collaboration 管理ユーティリティでの作業
- ナレッジディレクトリにファイルをインポートするための Collaboration の設定
- Collaboration のセキュリティの処理
- マイ アカウント設定での処理
- Collaboration の設定ファイルの処理
- Collaboration のログ機能の設定

## Collaboration 管理ユーティリティでの作業

この節では、Collaboration 管理ユーティリティを使用して実施できる作業の概要を説明します。次の内容について説明します。

- Collaboration 管理ユーティリティへのアクセス
- 診断テストの実行
- その他の設定

- 1 ファイルあたりのアップロードサイズの制限
- 発行に関する Collaboration の設定
- グループウェア サーバーの設定
- Collaboration 通知設定の変更
- Search Service での処理
- Collaboration へのポータル アクセスの付与

## Collaboration 管理ユーティリティへのアクセス

Collaboration 管理ユーティリティにアクセスするには次の手順を実行します。

1. ポータルにログインします。
2. [ 管理 ] タブをクリックします。
3. [ Collaboration Administration Utility ] を選択します。

## 診断テストの実行

[ 診断 ] ページでは、Collaboration のさまざまなコンポーネントに関する診断情報および設定情報を確認できます。このページにアクセスするには、Collaboration 管理者のポータルグループの権限が必要になります。

いずれかのコンポーネントで障害が発生した場合、[ 診断 ] ページには、その障害、関連設定、および対処法が表示されます。[ 診断 ] ページは、以下のタイミングでチェックすることをお奨めします。

- Collaboration のインストール後。
- システムでエラーが発生した後。例えば、ユーザーが購読の通知メッセージを受信しなくなった場合に、通知サービスが停止しているかどうかを [ 診断 ] ページで確認できます。

各テストの結果として、[ 進行状況 ] 列に以下のいずれかのメッセージが表示されます。

- **[OK]**: インストールまたは起動が成功したこと、またはコンポーネントが正常に機能していることを示します。
- **[エラー]**: インストールまたは起動が成功しなかったこと、またはコンポーネントが正常に機能していないことを示します。

このメッセージではエラーの原因が示されます。また、推奨されるトラブルシューティングの方法が示される場合もあります。

- **[無効]**: コンポーネントが有効になっていないことを示します。これは、コンポーネントが使用されていない場合は必ずしもエラーであるとは限りません。

以下の表では、Collaboration のコンポーネントに提供されている診断テストについて説明します。

**表 3-1 Collaboration の診断**

テスト	説明
[Collaboration 起動およびデータベース]	Collaboration が正常に起動したことを確認する。
[Collaboration 通知サービス]	通知サービスが有効化および実行されていることを確認する。
[Document Repository Service]	ドキュメント リポジトリ サービスが実行されていることを確認する。
[Search Service]	Search Service が実行されていることを確認する。
[Groupware Exchange SOAP Service]	Groupware Exchange SOAP Service が実行されていることを確認する。  <b>注意:</b> このテストを実行するには、Groupware Exchange SOAP Service を有効にし、Microsoft Exchange をバックエンドサーバーとしてを設定する必要がある。Groupware Exchange SOAP Service が有効化されていない場合、[無効] のメッセージが表示される。

表 3-1 Collaboration の診断

テスト	説明
[Image Service の JS コントロール (version_number) 設定 および JavaScript ファイル]	JS コントロールのコンポーネントが正常にインストールされていることを確認する。アプリケーションでは、version_number の個所に JS コントロールのバージョン番号が表示される。
[PTAPI 経由ポータル 接続]	API Service が実行されていることを確認する。

ポータルが停止した場合、ブラウザのアドレス バーに以下の URL を入力して [ 診断 ] ページにアクセスできます。

http://<server\_name>:<port\_number>/collab/admin/diagnostic/index.jsp。次に例を示します。  
http://brettg-gx:8080/collab/admin/diagnostic/index.jsp

**注意：** URL を入力して [ 診断 ] ページにアクセスする場合、JS コントロールおよびポータル接続のテストは表示されません。

診断テストは、Collaboration と統合されているグループウェア サーバーに対しても実行できます。グループウェア サーバーのテストの詳細については、[3-12 ページの「グループウェア サーバーのテスト」](#)を参照してください。

## その他の設定

以下の節では、[ その他の設定 ] ページの設定オプションについて説明します。

### 最大プロジェクト サイズの指定

プロジェクトのサイズを制限するには、[ 最大プロジェクト サイズの指定 ] を選択し、MB 単位でサイズ制限を入力してください。ストレージ スペースは、予想されるドキュメントまたはファイルとそれらの改訂版の数およびサイズに基づいて設定します。

デフォルトでは、プロジェクトのサイズは制限されていません。プロジェクトのサイズ制限が設定済みだが、元の無制限の設定に戻す場合は、このチェック ボックスをオフにします。

サイズの制限は、個々のプロジェクトに対する設定であり、Collaboration 内のプロジェクト コレクション全体のための設定ではありません。この設定は、Collaboration 内の各プロジェクトに適用されます。プロジェクトの管理者は、特定のプロジェクトについて、そのプロジェクトの [ 一般設定 ] ページで最大サイズを定義できます。このページで定義するサイズは、[ **最大プロジェクト サイズの指定** ] チェック ボックスの横にあるボックスに入力した値を超えることはできません。

**注意：** Collaboration では、プロジェクトのメモリ使用量の計算に、プロジェクトのごみ箱内のオブジェクトが含まれます。

## 個人プロジェクトを有効にする方法

個人プロジェクト機能は、ユーザーが自分の個人プロジェクトを作成および維持できるようにします。個人プロジェクトには、ドキュメント、タスク リスト、ノート、およびカレンダー機能が含まれています。この機能を有効にするには、[ **個人プロジェクトを有効にする** ] を選択します。各個人プロジェクトのサイズを制限するには、MB 単位でサイズを入力します。

デフォルトでは、個人プロジェクトのサイズは制限されていません。プロジェクトのサイズ制限が設定済みだが、元の無制限の設定に戻す場合は、このチェック ボックスをオフにします。

上記の手順を実行した後、この機能の使用を許可するグループに、以下の手順で正しいアクティビティ権を付与する必要があります。

1. [ **管理** ] タブをクリックします。
2. [ **アクティビティ マネージャ** ] ユーティリティを選択します。
3. [ **Collaboration 個人プロジェクトの所有** ] をクリックします。
4. [ **グループの追加** ] をクリックします。
5. 追加するグループを選択します。
6. [ **OK** ] をクリックします。
7. [ **終了** ] をクリックします。

## マイ ページに追加できるようにする方法

ユーザーが各自のマイ ページにプロジェクトを追加できるようにするには、**[Enable Add To My Page]** チェック ボックスを選択します。このチェック ボックスはデフォルトで選択されています。

## ポータル グループ通知を有効にする方法

ユーザーが複数のポータル グループ内または全ポータル グループ内の個々のユーザーを一度に選択して通知を受信できるようにするには、**[Enable portal group notifications]** チェック ボックスを選択します。このチェック ボックスはデフォルトでチェックされていません。

## 使用していないプロジェクト フォルダを非表示にする方法

ユーザーがアクセスできないプロジェクトのみが含まれているプロジェクト フォルダを非表示にする場合は、**[Hide project folders that contain only projects a user cannot access]** を選択します。このチェック ボックスはデフォルトでチェックされていません。

このオプションを有効にすると、セキュリティのチェックが追加されるため、プロジェクト エクスプローラの動作が遅くなる場合があります。

## WebDAV を有効にする方法

Collaboration のデスクトップ統合機能をユーザーが使用できるようにするには、**[WebDAV を有効にする]** を選択します。このチェック ボックスを使用できるようにするには、`config.xml` ファイルの `fullWebDAVAccessToThisServer` ノードを `yes` に設定する必要があります。Config.xml には、WebDAV に関して設定が必要なノードが他にも含まれています。このオプションで行った変更は、`config.xml` には反映されません。

## ウェブ編集を有効にする方法

ウェブ編集は、Collaboration 内のドキュメントを編集するプロセスを容易にします。この機能を使用することによって、ユーザーは、チェックイン、チェックアウト、アップロード、およびダウンロードを行わずに、Microsoft Office ドキュメントをその場で編集することができます。

ユーザーがデスクトップ上で Microsoft Office ドキュメントを編集できるようにするには、**[ウェブ編集を有効にする]**を選択します。このチェック ボックスを使用できるようにするには、`config.xml` ファイルの `webEdit enabled` ノードを `yes` に設定する必要があります。`Config.xml` には、ウェブ編集に関して設定が必要なノードが他にも含まれています。このオプションで行った変更は、`config.xml` には反映されません。

エンド ユーザーのブラウザで Microsoft ActiveX コントロールが無効に設定されている場合、ウェブ編集機能を使用できません。ウェブ編集機能は、ユーザーのマシンに Collaboration Office ツール アドインがインストールされていなくても使用することができます。

## Bulk Upload (一括アップロード) 機能を有効にする方法

Bulk Upload 機能は、ユーザーが、ローカル マシンから Collaboration に、複数のドキュメントをアップロードしたり、ディレクトリ階層構造をコピーしたりすることを可能にします。この機能を有効にするには次の手順を実行します。

1. インストール時に、Bulk Upload 機能を有効にしなかった場合は、**config.xml** を編集し、**bulkUpload.enabled** エレメントを **yes** に設定する必要があります。  
または、Collaboration 管理ユーティリティを使用して有効化することもできます。
  - a. **[管理]** タブをクリックします。
  - b. **[Collaboration 管理]** ユーティリティを選択します。
  - c. **[その他の設定]** をクリックします。
  - d. **[一括アップロードを有効にする]** をクリックします。
2. 対応するアクティビティ権を付与するために、以下を実行します。
  - a. **[管理]** タブをクリックします。
  - b. **[アクティビティ マネージャ]** ユーティリティを選択します。
  - c. **[一括アップロードを有効にする]** をクリックします。
  - d. **[グループの追加]** をクリックします。
  - e. 追加するグループを選択します。
  - f. **[OK]** をクリックします。
  - g. **[終了]** をクリックします。

### Bulk Upload 機能を使用するためのクライアントの必要条件

この節では、Bulk Upload 機能を使用するために必要なクライアント設定について説明します。Bulk Upload を有効にした後、クライアントマシンに、次のソフトウェアをインストールする必要があります。

- Java Runtime Environment (JRE)、バージョン 1.4.2 以上
- Java Plug-in、バージョン 1.4 以上
- Bulk Upload アプレット

ユーザーが Bulk Upload 機能を使用する際、ブラウザは、Java Runtime Environment および Java Plug-in がインストールされていることを確認します。これらがインストールされていない場合、ユーザーは、それらをダウンロードおよびインストールするように指示されます。

これらがインストールされている場合、Java Plug-in は Bulk Upload アプレットをロードします。アプレットが検出されない場合、Image Service からダウンロードされます。ユーザーは、アプレットを信用するという設定を行う必要があります。ユーザーは、アプレットを信用する事に関して「常に信用する」を選択する必要があります。

### Zip ダウンロードを有効にする方法

ユーザーがフォルダや複数のドキュメントを .zip ファイルとしてダウンロードできるようにするには、[Zip 圧縮のダウンロードを有効にする] を選択します。ボックスに .zip ファイルのサイズ制限を入力します。.zip ファイルがこのサイズ制限値を越えると、ダウンロードが中止されます。

### ドキュメント バージョン番号の設定



## 1 ファイルあたりのアップロード サイズの制限

アップロード対象ファイルの最大サイズをデフォルト値以外に設定する場合、1 ～ 999 の数を [1 ファイルあたりのアップロード最大サイズ (MB)] ボックスに入力します。デフォルトは、10 MB です。アップグレード時に `config.xml` の `maxUploadMegabytes` ノードが使用される場合を除いて、ここでの設定が常に使用されます。このオプションで行った変更は、`config.xml` には反映されません。

## ディスカッション メッセージ サイズの制限

メッセージの最大文字数をデフォルト値以外に設定する場合、1000 ～ 99999 の数を [ディスカッション メッセージの最大文字数] ボックスに入力します。デフォルトは 16000 です。`config.xml` の `maxMessageChars` ノードが使用されるアップグレード時を除いて、ここでの設定が常に使用されます。このオプションで行った変更は、`config.xml` には反映されません。

## 休日の作成、編集および削除

[ 休暇 ] ページでは、Collaboration のカレンダーの休日を作成したり、休日のプロパティを変更したり、休日を削除することができます。休日は、1 日につき最大 1 つのみ作成できます。休日は、Collaboration の各プロジェクト カレンダー上に表示され、各プロジェクト カレンダーに適用されます。カレンダーのポートレットまたはプロジェクトから休日を作成、編集または削除することはできません。

## 発行に関する Collaboration の設定

Collaboration ナレッジディレクトリ (KD) のコンテンツ ソースを設定して、ユーザーがナレッジディレクトリにファイルを手動で発行できるように、Collaboration を設定することができます。Collaboration ナレッジディレクトリのコンテンツ ソースは、発行アクティビティが行われる前に設定する必要があります。この節では、Collaboration ナレッジディレクトリのコンテンツ ソースの設定方法について説明します。ファイルをナレッジディレクトリに自動的にインポートするためのクローラの設定に関する詳細については、[3-16 ページの「ナレッジディレクトリにファイルをインポートするための Collaboration の設定」](#)を参照してください。

## Collaboration の管理

ナレッジディレクトリに発行するためにコンテンツ ソースを設定するには、次の手順を実行します。

1. [**Collaboration 管理**] ユーティリティにアクセスします。
2. [**ディレクトリへの発行**] をクリックします。
3. [**コンテンツ ソースを設定**] をクリックします。
4. [Content Source] ダイアログ ボックスで [**Collaboration ナレッジディレクトリ**] を選択します。

このデータソースは、**Collaboration6.ptc** ファイルがポータルにロードされる際に、事前に設定されます。

5. [**OK**] をクリックします。
6. [**終了**] をクリックします。

**注意：** ドキュメントがナレッジディレクトリに発行されると、KD からの発行済みバージョンへのアクセス設定は、親 KD フォルダのアクセス設定を継承します。例えば、全員グループがナレッジディレクトリ フォルダに対して読み取りアクセス権を持っている場合、発行された Collaboration ドキュメントのバージョンには、ゲスト ユーザーを含むすべてのユーザーが KD からアクセスできるようになります。

## グループウェア サーバーの設定

新しいグループウェア サーバーを設定するには次の手順を実行します。

1. [**Collaboration 管理**] ユーティリティにアクセスします。
2. [**グループウェア サーバー**] をクリックします。
3. [**サーバーの追加**] をクリックします。
4. 設定情報を入力します。

Microsoft Exchange のバックエンド サーバーを設定する場合、次の設定情報を入力してください。

**表 3-2 Microsoft Exchange の設定パラメータ**

パラメータ	説明
[ サーバー Name/IP/URL ]	<p>グループウェア サーバーのサーバー名、IP アドレス、または URL。</p> <p><b>注意：</b> Collaboration を 3.x からアップグレードしている場合、3.x バージョンの設定ファイルの <b>serverURL</b> エレメントの値を使用し、<b>http://</b> プロトコルプレフィックスを追加する必要があります。</p> <p><b>例：</b> http://mail.company.com/exchange</p>
[ エイリアス ]	このグループウェア サーバーのオプションの記述名。

Lotus Domino のバックエンド サーバーを使用している場合、次の設定情報を入力してください。

**表 3-3 Lotus Domino の設定パラメータ**

パラメータ	説明
[ サーバー Name/IP/URL ]	<p>グループウェア サーバーのサーバー名、IP アドレス、または URL。</p> <p><b>注意：</b> Collaboration を 3.x からアップグレードしている場合、3.x バージョンの設定ファイルの <b>serverURL</b> エレメントの値を使用し、<b>http://</b> プロトコルプレフィックスを追加する必要があります。</p> <p><b>例：</b> http://mail.company.com/exchange</p>
[ エイリアス ]	<p>エンドユーザーが使用できる、このグループウェア サーバーのオプションの記述名。</p> <p><b>例：</b> MyCompany Exchange Server</p>
[ サーバー ポート ]	サーバーのポート番号が 80 以外である場合、そのポート番号を入力します。80 の場合は空白のままにします。

**表 3-3 Lotus Domino の設定パラメータ**

パラメータ	説明
[ プロキシ ホスト / ファイアウォール ポート ]	プロキシ サーバーまたはファイアウォールを使用する場合、そのホスト名を入力します。使用しない場合は空白のままにします。
[SSL の使用 ]	https を使用する場合、チェック ボックスを選択します。
[HTTPS ポート ]	443 以外の https ポート番号を使用する場合、ポート番号を入力します。443 を使用する場合は空白にします。
[ セッション ベースの認証 ]	フォーム ベースの認証 ( クッキー ) を使用する場合は、チェック ボックスを選択します。基本認証を使用する場合は、チェック ボックスをクリアします。
[Notes サーバーの Temp Dir]	添付ファイルを格納する Lotus Domino サーバーのローカル ディレクトリを入力します。
[Notes サーバーの Temp UNC]	添付ファイルを格納する Lotus Domino サーバーのディレクトリの UNC パスを入力します。これは、[Notes サーバー Temp Dir] ボックスで入力したディレクトリと同じです。 <b>例 :</b> \\<Lotus Domino server name>\<directory name>

**注意：** グループウェアの統合には、このページでの設定以外にも必要となるタスクがあります。詳細については、[5-13 ページの「Collaboration とグループウェアの統合」](#)を参照してください。

## グループウェア サーバーのテスト

Collaboration と統合されているすべてのグループウェア サーバーに対して診断テストを実行することができます。

グループウェア サーバーをテストするには次の手順を実行します。

1. [ **Collaboration 管理** ] ユーティリティにアクセスします。
2. [ **グループウェア サーバー** ] をクリックします。
3. [ **サーバーのテスト** ] をクリックします。

**注意：** このボタンは、Linux およびその他の UNIX プラットフォームでは表示されません。

テスト結果は、各グループウェア サーバーの [ 進行状況 ] 列に表示されます。各テストの結果として、以下のいずれかのメッセージが表示されます。

- **[OK]** : グループウェア サーバーは正常に機能しています。
- **[エラー]** : グループウェア サーバーが正しく追加されていないか、正常に機能していません。

このメッセージではエラーの原因が示されます。また、推奨されるトラブルシューティングの方法が示される場合もあります。詳細なエラー情報は Collaboration ログで確認できます。ログは次の場所にあります。

- Collaboration 管理ユーティリティの [ 診断 ] ページの上部 ([ [ここをクリック](#) ] リンクをクリックする)。
- `<PT_HOME>\ptcollab\<version_number>\settings\logs\collaboration.log`

デフォルトでは、PT\_HOME は **C:\bea\alui** です。ただし、Collaboration 4.2 にアップグレードした場合、PT\_HOME の場所は以前インストールしたバージョンの Collaboration と同じ場所になります。

## Collaboration 通知設定の変更

Collaboration 通知機能が概要通知を生成し、プロジェクト ユーザーにメールで送信する時間を指定することができます。概要ジョブ時間は、Collaboration がインストールされたマシン時間に合わせて実行されます。

概要ジョブ時間を設定するには次の手順を実行します。

1. **[Collaboration 管理]** ユーティリティにアクセスします。
2. **[Collaboration Notification]** をクリックします。
3. 概要ジョブ時間の時分を選択します。
4. **[ 終了 ]** をクリックします。

また、エンドユーザーは、受け取る通知電子メールの形式 ( プレインテキストまたは HTML ) を設定することもできます。形式は、[ [マイ アカウント | Collaboration の設定 | 購読](#) ] から選択します。詳細については、Collaboration のオンライン ヘルプを参照してください。

# Search Service での処理

Collaboration 管理ユーティリティでは、Search Service の状態をモニタし、そのデータを再作成することができます。

## Search Service の状態の表示

Collaboration は、Search Service に関する以下の情報を提供します。

表 3-4 Search Service の状態の説明

状態	説明
[ 稼動時間 ]	Search Service が起動してから経過した時間。
[ インストール ディレクトリ ]	Search Service がインストールされている場所。
[ 現在インデックス作成中のオブジェクト ]	Search Service インデックスに含まれている Collaboration の項目数。
[ 実行待ちのインデックス要求 ]	未処理の Collaboration オブジェクトに対するインデックス作成要求数。

## 検索コレクションの再作成

再作成によって、Collaboration データベースと Search Service のインデックス間のデータが再調整されます。このような再作成処理は時間が長くなり、リソースを大量に使用する可能性があるため、どうしても必要な場合だけ実行してください。

Search Service データベースを再作成するには次の手順を実行します。

1. [Collaboration 管理] ユーティリティにアクセスします。
2. [Search Service] をクリックします。
3. [ 検索コレクションの再作成 ] をクリックします。
4. [OK] をクリックします。

## Collaboration へのポータル アクセスの付与

Collaboration を設定する際に、Collaboration は所有ポータルと呼ばれるプライマリ ポータルに関連付けられます。Collaboration は、所有ポータルと直接的な関係を持ち、これには所有ポータルのデータベースへのアクセス権を含みます。

Collaboration にアクセスする全てのポータルは、認証名およびパスワードを送信します。Collaboration は、所有ポータルからのアクセスであることを確認するために、この認証情報を使用します。所有ポータルには、固有の認証識別子が割り当てられ、それによって、Collaboration は、各ポータルを特定することができます。

## 所有ポータルの変更

Collaboration は、config.xml で指定された値に基づいて所有ポータルを特定します。しかし、以下に示すように、Collaboration 管理ユーティリティを使用して所有ポータルを変更することもできます。

1. **[Collaboration 管理]** ユーティリティにアクセスします。
2. **[ポータル アクセス]** をクリックします。
3. 次のフィールドに手動で値を入力します。
  - [ウェブ サービス ID]
  - [ゲートウェイ ページ URL]
  - [Collaboration サービス URL]
4. **[終了]** をクリックします。

# ナレッジ ディレクトリにファイルをインポートするための Collaboration の設定

クローラを設定すると、Collaboration からナレッジ ディレクトリにファイルを自動的にインポートすることができます。この節では次の項目について説明します。

- [ファイルをインポートするためのコンテンツ クローラの設定](#)
- [Collaboration のドキュメント プロパティの設定](#)

ユーザーがナレッジ ディレクトリに手動でファイルを発行できるように Collaboration を設定するための詳細については、[3-9 ページの「発行に関する Collaboration の設定」](#)を参照してください。

**注意：** Collaboration コンテンツ クローラは、Foundation 6.0 でのみサポートされています。

## ファイルをインポートするためのコンテンツ クローラの設定

Collaboration からナレッジ ディレクトリにファイルをインポートするには、Collaboration クローラのコンテンツ ソースからコンテンツ クローラを作成します。Collaboration クローラのコンテンツ ソースは Collaboration コンテンツ クローラとともに使用する必要があります。Collaboration クローラのコンテンツ ソースのための認証設定は、Collaboration のリモート サーバー オブジェクトの認証設定と一致している必要があります。

Collaboration のファイルをナレッジ ディレクトリにインポートするには、API Service および Automation Service がインストールされている必要があります。インストールの詳細については、『[Installation Guide for BEA AquaLogic Interaction](#)』を参照してください。

Collaboration からナレッジ ディレクトリにファイルをインポートするためにコンテンツ クローラを設定するには、コンテンツ クローラの [メイン設定] ページで次の手順を実行します。



## ナレッジ ディレクトリにファイルをインポートするための Collaboration の設定

- プロジェクト アイコンの横にある [ 参照 ] をクリックして、コンテンツ クローラがアクセスするフォルダを含むプロジェクトを選択します。選択できるプロジェクトは、自分がプロジェクト リーダーとなっているプロジェクトのみです。
- フォルダ アイコンの横にある [ 参照 ] をクリックしてフォルダを選択します。フォルダの管理権限が必要です。さらに、フォルダのプロパティで [ コンテンツ クローラへのアクセス権限 ] を選択して、コンテンツ クローラがこのフォルダにアクセスできるようにする必要があります。コンテンツ クローラに対するアクセス権限の設定は、子フォルダに継承されます。

デフォルトでは、フォルダ内でコンテンツ クローラがアクセスできる最大レベル数は無制限です。[ 検索する最大レベル数 ] ドロップダウン リストを使用すると、この数値を変更することができます。

ナレッジ ディレクトリにファイルをインポートするコンテンツ クローラについて、次のように設定することをお勧めします。

- コンテンツ クローラの [ メイン設定 ] ページで、[ ソース フォルダの構造をミラーリングする ] オプションを選択する。
- コンテンツ クローラの [ 詳細設定 ] ページで、次の操作を実行する。
  - [ このコンテンツ ソースから ] オプションをオンにする
  - [ これらのドキュメントを更新する ] オプションをオンにする
  - [ 削除されたリンクを再生成する ] オプションをオンにする

コンテンツ クローラのジョブに関するエラー情報については、次の場所を確認します。

- 各コンテンツ クローラ ジョブのジョブ履歴。
- Collaboration のログ。次の場所にあります。
  - Collaboration 管理ユーティリティの [ 診断 ] ページの上部 ([ ここをクリック ] リンクをクリックする)
  - <PT\_HOME>\ptcollab\<version\_number>\settings\logs\collaboration.log

コンテンツ クローラの作成に関する詳細については、『Administrator Guide for BEA AquaLogic Interaction』を参照してください。

## Collaboration のドキュメント プロパティの設定

発行され、ナレッジディレクトリに対してクロールされるドキュメントには、チェックイン担当プロパティが含まれています。これは、ナレッジディレクトリでアクセス可能なドキュメントのバージョンをチェックインしたユーザーの名前を格納する Collaboration のプロパティです。[チェックイン担当]プロパティを表示するには、次の手順を実行して、グローバルドキュメントプロパティマップにこのプロパティを追加する必要があります。

1. ポータルにログインします。
2. [管理] タブをクリックします。
3. [Utilities] ドロップダウン リストから、[グローバルドキュメントプロパティマップ] を選択します。  
[グローバルドキュメントプロパティマップ] が表示されます。
4. [プロパティの追加] をクリックします。
5. [プロパティの追加] ウィンドウで、[チェックイン担当] を選択します。
6. [OK] をクリックします。  
[チェックイン担当] プロパティが [グローバルドキュメントプロパティマップ] ページに追加されます。
7. [チェックイン担当] リンクをクリックします。
8. [チェックイン担当] 行の [ドキュメント属性] 列で、*CheckedInBy* と入力します。
9. [終了] をクリックします。

# Collaboration のセキュリティの処理

この節では、Collaboration が使用するセキュリティ モデルについて説明します。Collaboration のセキュリティは、役割、アクセス レベル、およびアクティビティ権の概念に基づいています。以下の節では、これらの概念について説明します。

## 役割

Collaboration のセキュリティは、プロジェクトの役割に基づいて設定および管理されます。ポータル ユーザーは、プロジェクトに対する役割が割り当てられている場合のみ、そのプロジェクトにアクセスすることができます。Collaboration に関しては、次の役割が定義されています。

**表 3-5 プロジェクトの役割の説明**

役割	説明
プロジェクト リーダー	<p>プロジェクト リーダーという役割は、プロジェクトおよびそのオブジェクトに対して読み取り / 書き込みアクセス権限を持ちます。プロジェクト リーダーは以下のことができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>プロジェクトおよびそのオブジェクトの作成、編集、および削除</li> <li>プロジェクトのオブジェクトに対するアクセス権限の設定</li> <li>プロジェクトの全タスクの実行</li> </ul> <p><b>注意：</b> ポータル管理者は、デフォルトでポータル リーダーの役割を持つグループのメンバーとして設定され、削除することはできません。</p>

**表 3-5 プロジェクトの役割の説明**

役割	説明
プロジェクト メンバー	デフォルトで、プロジェクト メンバーの役割には、Collaboration のオブジェクトに対する書き込み権限が設定されています。
プロジェクト ゲスト	デフォルトで、プロジェクト ゲストの役割は、プロジェクトのオブジェクトに対する読み取り権限を持ちますが、オブジェクトを変更することはできません。

役割は、プロジェクト固有に割り当てられます。したがって、同じポータル ユーザーが異なるプロジェクト内で異なる役割を持つことができます。

さらに、役割自体がプロジェクトごとに異なる権限セットを持つことができるので、ユーザーは、同じ役割が設定されていても、異なるプロジェクトでは異なる権限を持つことができます。

## アクセス レベル

Collaboration の全てのオブジェクトに設定できるアクセス レベルは5つあります。これらのアクセス レベルは次のとおりです。

- 管理
- 編集
- 書き込み
- 読み取り
- アクセスなし

各アクセス レベルは、それより低い全てのアクセス レベルの権限を継承します。デフォルトで、ユーザーは、設定されている役割に基づいて、プロジェクトから直接アクセス レベルを継承します。オブジェクトを作成したユーザーには、そのオブジェクトに対する管理アクセス権限が設定されます。プロジェクト リーダーは、プロジェクト内の全てのオブジェクトから所有者を削除することができます。

## 機能エリアに対するアクセス レベル

各役割には、Collaboration の各機能エリアに対するアクセス レベルが関連付けられています。以下の表は、各アクセス レベルが各機能エリアで与える権限を示します。

表 3-6 権限マトリックス

アクセ ス レベ ル	ディスカッ ション	タスク リスト	ドキュメント	フォルダ	カレンダー
読み取り	読み取り	読み取り	読み取り	読み取り	読み取り
書き込み	投稿	タスクの請求 タスクの作成 ステータスの更新	チェックイン/ チェックアウト	ドキュメントの挿入 フォルダの作成	イベントの作成
編集	コピー 編集 ディスカッションの作成 リンクの添付	コピー 編集 タスクリストの作成 リンクの添付 所有者の割り当て	コピー 編集 ショートカットの作成 発行 バージョンの復帰	コピー 編集 フォルダの挿入 名前の変更	編集 リンクの添付
管理	削除 移動 セキュリティ	削除 移動 セキュリティ	削除 移動 セキュリティ チェックアウトオーバーライド	削除 移動 セキュリティ	削除 セキュリティ

## アクティビティ権

Collaboration では、さまざまな機能にアクセス権限を付与するために以下のアクティビティ権が使用されます。

表 3-7 アクティビティ権の説明

アクティビティ権	説明
[ インスタント メッセージの有無を示すアイコンの表示 ]	ユーザーが、Collaboration ページで、インスタント メッセージの有無を示すアイコンを表示できるようになります。
[Collaboration への一括アップロード]	ユーザーが次の機能を使用できるようになります。 <ul style="list-style-type: none"><li>• 複数のファイルおよびフォルダの同時アップロード</li><li>• Collaboration へのウェブ フォルダのマップ</li></ul>
[Collaboration の管理]	ユーザーが、プロジェクト フォルダの作成、既存のプロジェクト フォルダの削除、移動、編集、およびプロジェクトのごみ箱の使用を実行できるようになります。
[Collaboration プロジェクトの管理]	ユーザーが、プロジェクトの作成、プロジェクトのアーカイブ、プロジェクト テンプレートの管理、ごみ箱用のシステム フォルダからのプロジェクトの削除、およびごみ箱用のシステム フォルダにあるプロジェクトの削除の取り消しを実行できるようになります。
[Collaboration 個人プロジェクトの所有]	ユーザーが、個人プロジェクトを持つことができるようになります。

## ユーザーへのアクティビティ権の付与

アクティビティ権をユーザーに設定するには次の手順を実行します。

1. ポータルにログインします。
2. [ 管理 ] タブをクリックします。
3. [ ユーティリティの選択 ] ドロップダウン メニューから [ アクティビティ マネージャー ] を選択します。
4. 編集するアクティビティ権をクリックします。

5. [ **グループの追加** ] をクリックします。
6. 追加するグループを選択します。
7. [ **OK** ] をクリックします。
8. [ **終了** ] をクリックします。

アクティビティ権の使用方法の詳細については、『Administrator Guide for BEA AquaLogic Interaction』を参照してください。

## デフォルトのプロジェクト セキュリティ

Collaboration は、プロジェクトが作成される際にプロジェクトに自動的に適用されるデフォルトのセキュリティ設定を提供します。システム管理者は、Collaboration のインスタンス全体に渡ってこれらのデフォルト設定を変更することができます。ただし、プロジェクトリーダーが変更できるのは、個々のプロジェクトのデフォルトのセキュリティ設定です。

プロジェクトのセキュリティは、以下の組み合わせです。

- Collaboration のオブジェクトに対するアクセス レベル
- Collaboration のオブジェクトに対する個々のアクティビティ権

## マイ アカウント設定での処理

この節では、Collaboration 固有のマイ アカウントの設定について説明します。これらの設定にアクセスするには次の手順を実行します。

1. ポータルにログインします。
2. [ **マイ アカウント** ] をクリックします。
3. [ **Collaboration の設定** ] をクリックします。

[Collaboration の設定] ページからは、以下に示すページにアクセスできます。

表 3-8 [Collaboration の設定] ページ

[Collaboration の設定] ページ 説明	
[ 購読 ]	<p>ユーザーの購読がすべて表示されます。ユーザーは、購読を管理することが可能で、必要のない購読の削除、各購読に対する通知電子メールのタイプの指定を行うことができます。ドキュメントおよびディスカッションを購読することによって、それらに対する通知を購読することができます。タスクに関する通知の管理は、購読ユーザーではなく、タスクの作成者が行います。ユーザーは、以下から受信する通知の種類を選択することができます。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>• 即時通知</li><li>• その日の全メッセージの概要通知</li><li>• 両方のタイプの通知</li></ul> <p>購読を削除する場合、関連するチェック ボックスをすべてオフにする必要があります。ユーザーは、プロジェクト別に購読を参照するか、[ <b>全てのプロジェクト</b> ] をクリックすることによって全ての購読を表示することができます。</p>
[ 表示の設定 ]	<p>このページでは、独自のページ設定を定義し、表示モードのオプションを設定できます。[ エクスプローラでの改ページ ] では、Collaboration のエクスプローラについて改ページの設定を定義できます。[ 表示モード ] では、[ 標準 ] または [ 概要 ] の表示モードを選択できます。</p>
[ カレンダーの同期 ]	<p>config.xml の calendarAutoSynch ノードが有効にされている場合に利用できます。このページでは、Collaboration が、カレンダー情報を Microsoft Exchange サーバーまたは IBM Lotus Notes サーバーと同期するように設定することができます。</p>

これらの設定に関する詳細については、Collaboration のオンライン ヘルプを参照してください。



# Collaboration の設定ファイルの処理

Collaboration は、導入システムをカスタマイズおよび拡張することを可能にする複数の設定ファイルを使用します。これらのファイルは、構造化 XML ファイルです。これらの XML ファイルはすべて <PT\_HOME>\ptcollab\<version\_number>\settings\config に格納されています。

**注意：** 通知サービスの設定ファイルは、<PT\_HOME>\ptnotification\<version\_number>\settings\config に格納されています。

これらのファイルに含まれる設定ノードに関する詳細については、[A-1 ページの「設定ファイルの処理」](#)を参照してください。

以下の表では、設定ファイルの基本概要を示します。

表 3-9 Collaboration の設定ファイル

Collaboration の設定 ファイル	説明
config.xml	Collaboration の主要な設定ファイルです。このファイルでは Collaboration のさまざまな詳細設定を設定できます。これには、Collaboration で使用される他のコンポーネント ( 検索、通知など ) への接続情報や、一括アップロード、WebDAV などの機能の詳細設定が含まれます。この設定ファイルはデフォルトで <PT_HOME>\ptcollab\4.2\settings\config にインストールされています。ここで、<PT_HOME> はデフォルトで C:\bea\alui です。詳細については、 <a href="#">A-5 ページの「config.xml」</a> を参照してください。
documentTemplates.xml	Collaboration で認識されるドキュメント テンプレートを設定します。この設定ファイルはデフォルトで <PT_HOME>\ptcollab\4.2\settings\config にインストールされています。ここで、<PT_HOME> はデフォルトで C:\bea\alui です。詳細については、 <a href="#">A-16 ページの「documentTemplates.xml」</a> を参照してください。

**表 3-9 Collaboration の設定ファイル**

Collaboration の設定 ファイル	説明
filetypes.xml	<p>Collaboration におけるファイル タイプを表示します。この設定ファイルはデフォルトで  &lt;PT_HOME&gt;\ptcollab\4.2\settings\config にインストールされています。ここで、&lt;PT_HOME&gt; はデフォルトで C:\bea\alui です。詳細については、<a href="#">A-17 ページの「filetypes.xml」</a>を参照してください。</p>
database.xml	<p>Collaboration のデータベース設定を設定します。この設定ファイルは、Collaboration のインストール時に自動的に更新されます。この設定ファイルはデフォルトで  &lt;PT_HOME&gt;\ptcollab\4.2\settings\config にインストールされています。ここで、&lt;PT_HOME&gt; はデフォルトで C:\bea\alui です。詳細については、<a href="#">A-20 ページの「database.xml」</a>を参照してください。</p>
dr.xml	<p>ドキュメント リポジトリ サービスへの接続を設定します。この設定ファイルはデフォルトで  &lt;PT_HOME&gt;\ptcollab\4.2\settings\config にインストールされています。ここで、&lt;PT_HOME&gt; はデフォルトで C:\bea\alui です。</p> <p><b>注意：</b> dr.xml は、Collaboration のインストール時に自動的に更新されます。このファイルは変更しないでください。</p>
audit.xml	<p>Collaboration のログ機能およびプロファイリング機能を制御します。この設定ファイルはデフォルトで  &lt;PT_HOME&gt;\ptcollab\4.2\settings\config にインストールされています。ここで、&lt;PT_HOME&gt; はデフォルトで C:\bea\alui です。</p> <p><b>注意：</b> このファイルのコンテンツは、Collaboration によって生成されます。変更しないでください。</p>

表 3-9 Collaboration の設定ファイル

Collaboration の設定 ファイル	説明
cache.xml	<p>Collaboration のキャッシュを管理します。この設定ファイルはデフォルトで            &lt;PT_HOME&gt;\ptcollab\4.2\settings\config にインストールされています。ここで、&lt;PT_HOME&gt; はデフォルトで C:\bea\alui です。</p> <p><b>注意：</b> このファイルのコンテンツは、Collaboration によって生成されます。変更しないでください。</p>
cluster.xml	<p>クラスター化されたネットワーク環境でセットアップされる Collaboration の設定を設定します。この設定ファイルはデフォルトで            &lt;PT_HOME&gt;\ptcollab\4.2\settings\config にインストールされています。ここで、&lt;PT_HOME&gt; はデフォルトで C:\bea\alui です。</p>
application.xml	<p>Collaboration に対して、http ポート、https ポートなどの Web アプリケーション導入設定を設定します。この設定ファイルはデフォルトで            &lt;PT_HOME&gt;\ptcollab\4.2\settings\config にインストールされています。ここで、&lt;PT_HOME&gt; はデフォルトで C:\bea\alui です。</p>
object-migration.xml	<p>Collaboration におけるオブジェクトの移行を制御します。この設定ファイルはデフォルトで            &lt;PT_HOME&gt;\ptcollab\4.2\settings\config にインストールされています。ここで、&lt;PT_HOME&gt; はデフォルトで C:\bea\alui です。</p> <p><b>注意：</b> このファイルのコンテンツは、Collaboration によって生成されます。変更しないでください。</p>

## Collaboration のログ機能の設定

Collaboration は、以下の場所にログ メッセージを書き込みます。

- **Collaboration.log** : ローカルの Collaboration のログ ファイルです。このログ ファイルは <PT\_HOME>\ptcollab\<version\_number>\settings\logs\collaboration.log にあります。Collaboration のログ ファイルに対してログ機能を有効にしたり、そのログを表示するために設定を行う必要はありません。
- **ALI Logging Spy** : ALI Logging Utilities での主要なログ メッセージ受信機能です。ALI Logging Spy は、Collaboration や他のログ メッセージ送信者 ( ポータル、Publisher など ) からログ メッセージを受信し、それらをグラフィカル ユーザー インタフェースで表示します。

この節では次の項目について説明します。

- [Collaboration のログ機能を使用するために Logging Utilities を設定する方法](#)
- [ALI Logging Spy で Collaboration メッセージを表示するための設定方法](#)

**注意 :** ALI Logging Spy で Collaboration のメッセージを表示するように設定する前に、Collaboration でログ機能を使用するために Logging Utilities を設定する必要があります。

## Collaboration のログ機能を使用するために Logging Utilities を設定する方法

Collaboration のログ機能を設定するには、audit.xml ファイルの OpenLog セクションを使用します。audit.xml ファイルはデフォルトで <PT\_HOME>\ptcollab\4.2\settings\config にインストールされています。ここで、<PT\_HOME> はデフォルトで C:\bea\alui です。以下では、このセクションの記述例を示し、セクション内の個々のノードについて説明します。

```
<openlog enabled="yes">  
    <serverName value=""/>  
    <restrictToLocalMachine value="no"/>  
</openlog>
```

## <openlog enabled> ノード

このノードでは、OpenLog を有効または無効にできます。デフォルトでは *openlog enabled* が *yes* に設定されます。

## <serverName value> ノード

このノードでは以下の設定を行うことができます。

- Collaboration のロギング名を定義する。ロギング名を定義することによって、ロギングフレームワークを使用する他のすべての BEA AquaLogic Interaction アプリケーションから区別します。
- Collaboration のログメッセージを容易に確認できるようにする。

インストール時に Collaboration インストーラによって、Collaboration ロギング名は以下の名前に設定されます。

```
collab.[machine-name].[user-name]
```

このデフォルトでは *machine-name* が Collaboration がインストールされるマシンの名前です。*user-name* がインストーラを実行したユーザーの名前です。

このデフォルトの Collaboration ロギング名は、<serverName value> ノードに独自の文字列を入力することによって上書きできます。入力する文字列は、以下の条件を満たす必要があります。

- ロギング名に含めることができるのは、表示可能な ASCII 文字と空白文字のみである。  
タブや復帰改行文字などの表示不可能な ASCII 文字を含めることはできません。また、スラッシュ (/) も含めることはできません。
- ロギング名は、128 文字以下である必要がある。

## <restrictToLocalMachine value> ノード

<restrictToLocalMachine> XML ノードでは、Collaboration のログメッセージをリモートで参照するための機能を有効または無効にします。この値が *no* に設定されている場合、ネットワーク上の他のマシンで実行されている ALI Logging Spy のインスタンスにおいて、Collaboration のログメッセージを受信することができます。この値を *yes* に設定すると、Collaboration のログメッセージを受信できるのは、Collaboration がインストールされているマシン上で実行されている ALI Logging Spy のインスタンスのみにになります。デフォルト値は *no* です。

Collaboration のログ メッセージをリモートから参照できるようにするには、Collaboration がインストールされているマシンと ALI Logging Spy がインストールされているマシンの間で、UDP マルチキャスト メッセージを送受信できるようにネットワークを設定する必要があります。詳細については、貴社のネットワーク管理者にお問い合わせください。

# ALI Logging Spy で Collaboration メッセージを表示するための設定方法

この節では、ALI Logging Spy で Collaboration メッセージを表示するように設定する方法について説明します。

**注意：** ALI Logging Spy で Collaboration のメッセージを表示するように設定する前に、Collaboration でログ機能を使用するために Logging Utilities を設定する必要があります。詳細については、[3-28 ページの「Collaboration のログ機能を使用するために Logging Utilities を設定する方法」](#)を参照してください。

ALI Logging Spy で Collaboration メッセージを表示するように設定するには次の手順を実行します。

1. [スタート | すべてのプログラム | BEA | ALI Logging Utilities | Logging Spy] から ALI Logging Spy を起動します。ALI Logging Spy の使用方法の詳細については、ALI Logging Spy で提供されているオンライン ヘルプを参照してください。

**注意：** Collaboration 4.2 にアップグレードしている場合、ALI Logging Spy へのパスは、前にインストールしたバージョンの Collaboration と同じです。

2. [View | Set Filters] を選択して、[Filter Settings] ダイアログ ボックスを開きます。
3. ロギング サーバーを追加するには、[Filter Settings] ウィンドウ内の任意の場所を右クリックします。コンテキスト メニューが表示されます。
4. [Add Message Sender] を選択します。[Add Message Sender] ダイアログ ボックスが表示されます。
5. サーバー名を入力するか、名前のリストから選択し、[OK] をクリックします。

サーバー名は、audit.xml ファイルの openLog セクションの `<serverName>` ノードに格納されます。

メッセージの送信者としてサーバーを追加すると [Filter Settings] ウィンドウのツリー構造内に表示されます。「+」をクリックすることによってサーバーを展開し、メッセージを送信するコンポーネントのリストを表示することができます。

6. [Filters Settings] ウィンドウで、サーバーの下各コンポーネントを展開し、そのコンポーネントに対して選択されているロギング レベルを確認します。

各コンポーネントの横にあるチェック ボックスには次の 3 つの状態があります。

- グレー、チェックマーク有り: 4 つの初期ロギング レベル ( 上に表示されているロギング レベル ) が選択されている
- 透明、チェック マークあり: すべてのロギング レベルが選択されている
- 透明: ロギング レベルが 1 つも選択されていない

コンポーネントの横のチェック ボックスをクリックすることによってこれらの状態を変更することができます。

7. また、[Filter Settings] ウィンドウでは、次の操作を行うこともできます。

- メッセージを送信するサーバーおよびそのコンポーネントを削除するには、対象サーバー名を右クリックし、[**Remove Message Sender**] を選択します。
- 選択したロギング レベルをサーバーのすべてのコンポーネントに適用するには、対象サーバー名を右クリックし、[<LoggingLevel>]( 例えば [**Enable Performance**]) を選択します。
- 1 つのコンポーネントに対してロギング レベルを有効または無効にするには、そのコンポーネントを展開し、ロギング レベルの横のチェック ボックスを選択またはクリアします。
- サーバーのすべてのコンポーネントに対してすべてのロギング レベルをクリアするには、対象サーバー名を右クリックし、[**Clear All Filters**] を選択します。確認メッセージが表示されたら、[**OK**] をクリックします。こうすることによって、それらのコンポーネントが ALI Logging Spy の当該インスタンスにロギング メッセージを送信しないように設定することができます。
- サーバーのすべてのコンポーネントのすべてのロギング レベルを元の 4 レベルにリセットするには、そのサーバー名を右クリックし、[**Reset Filters**] を選択します。確認メッセージが表示されたら、[**OK**] をクリックします。

8. 最後に [**OK**] をクリックします。

### フィルタの設定とデバッグ

ALI Logging Spy におけるフィルタの設定は、Collaboration の audit.xml ファイルで指定されているロギング レベルとは無関係です。audit.xml の設定は、collaboration.log ファイルに書き込まれるメッセージに対してのみ影響があり、ALI Logging Spy で表示されるメッセージには影響ありません。反対に、ALI Logging Spy での設定が collaboration.log ファイルに書き込まれるメッセージに影響を与えることもありません。

ALI Logging Spy におけるフィルタの設定が audit.xml での設定とは無関係であるため、audit.xml のロギング レベルを変更して Collaboration を再起動することなく、ALI Logging Spy を使用して Collaboration での問題をデバッグすることができます。これを行うには、ALI Logging Spy を起動してから、すべての関連コンポーネントに対して [Debug] ロギング レベルを有効にし、Collaboration からのデバッグ メッセージを参照します。

**注意：** ALI Logging Spy で [Debug] ロギング レベルを有効にすると、Collaboration のパフォーマンスに影響を受けます。したがって、ALI Logging Spy が、実稼動環境で使用されている Collaboration と共に使用されている場合、長期間、ALI Logging Spy で [Debug] ロギング レベルを有効にしたままにしないでください。



# Collaboration のバックアップと復元

この節では Collaboration のバックアップと復元の方法について説明します。

## Collaboration のバックアップ

Collaboration をバックアップするには次の手順を実行します。

1. Collaboration データベース、ポータル データベース、およびドキュメント リポジトリが同期していることを確認するため、以下の操作を同時に実行します。
  - Collaboration インストール時に作成した Collaboration データベースのバックアップを取る。詳細については、使用しているデータベース タイプの手順を参照してください。
  - ポータル データベースのバックアップを取る。
  - すべてのドキュメント リポジトリ ファイルのバックアップを取る。ファイルは、デフォルトで以下の場所に格納されています。  
<PT\_HOME>\ptdr\documents\PTCollab
2. Collaboration の設定ファイルのバックアップを取ります。
3. (オプション) 検索インデックスのバックアップを取ります。これは、Collaboration の復元時に再作成できます。
4. (オプション) 現在の導入環境で行ったカスタマイズ内容のバックアップを取ります。

## Collaboration の復元

Collaboration を復元するには次の手順を実行します。

1. ポータルおよび Collaboration をシャットダウンします。
2. Collaboration データベースおよびポータル データベースを復元します。
3. ドキュメント リポジトリ ファイルを復元します。
4. Collaboration の設定ファイルを復元します。

## Collaboration の管理

5. **(オプション)** 検索インデックスのバックアップを取っている場合、その検索インデックスを復元します。
6. **(オプション)** 導入環境で行った変更内容のバックアップを取っている場合、それらを復元します。
7. ポータルおよび Collaboration を再起動します。

# プロジェクトの管理

この章では、**Collaboration** プロジェクトに関する概要、およびプロジェクトを作成および管理するための基本手順について説明します。この章は、**Collaboration** でプロジェクトを作成および維持する作業を受け持つシステム管理者を対象にしています。この章には次の節が含まれています。

- [プロジェクトの概要](#)
- [プロジェクト エクスプローラの概要](#)
- [プロジェクトのアプリケーション ビューの概要](#)
- [プロジェクトの作成および管理](#)
- [プロジェクトへのアクセスの設定](#)
- [プロジェクト テンプレートの使用方法](#)
- [プロジェクトのアーカイブおよびリストア](#)
- [プロジェクトのエクスポート](#)

# プロジェクトの概要

ポータル ユーザーは、**Collaboration** によって、ドキュメント、カレンダー、ディスカッション、およびタスク リストを共有して共同作業を行うことができます。これらの要素が組み合わさって **Collaboration** のプロジェクトを形成し、このプロジェクトが **Collaboration** の主要要素となります。

**Collaboration** によって、個々のユーザーのニーズおよび目的に合わせてカスタマイズされた複数のプロジェクトを作成することができます。一連のプロジェクトが設定された後、ユーザーは、それらのプロジェクトの中から作業を遂行するために必要なプロジェクトを選択することができます。

ユーザーがプロジェクトを選択すると、**Collaboration** は、そのプロジェクトに関する情報を表示し、プロジェクトの機能エリアをユーザーが使用できるようにします。機能エリアは、プロジェクト メンバーの間でチームワークを促進するためにデザインされています。

**Collaboration** の各プロジェクトは、他のプロジェクトとは共有されない固有のオブジェクトおよびプロパティのセットを持ちます。例えば、プロジェクト A に追加されるドキュメントはそのプロジェクトのみに属します。プロジェクト B のユーザーは、固有のドキュメントセットを持ち、プロジェクト A に属するドキュメントを参照することはできません。同様に、各プロジェクトは、固有のタスク リスト、固有のディスカッション、固有のメッセージ、および固有のカレンダーを持ちます。

# プロジェクト エクスプローラの概要

プロジェクト エクスプローラによって、単一のウィンドウから全てのプロジェクト管理タスクを実行することができます。アクセス レベルに基づいて、共通のツールバーから異なるプロジェクト機能にアクセスできます。ユーザーが特定のタスクを実行する権限を持っていない場合、そのタスクは、ツール バーで無効になります。

## プロジェクト エクスプローラの概要

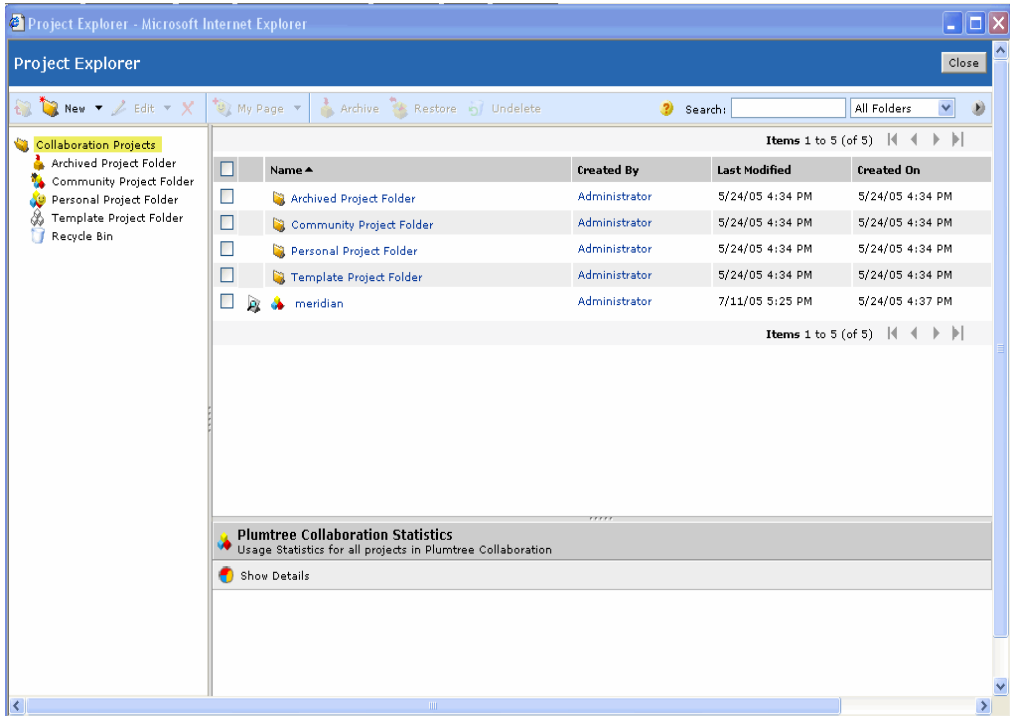
プロジェクト エクスプローラは次のエリアから構成されています。

**表 4-1 プロジェクト エクスプローラのエリア**

プロジェクト エクス プローラのエリア	説明
ツールバー	全てのプロジェクト エクスプローラ機能へのアクセスを提供します。
フォルダ ツリー ウィン ドウ	Collaboration 内のプロジェクト フォルダの階層構造を表示します。
詳細ウインドウ	選択されたプロジェクトまたはプロジェクト フォルダに関する情報を表示します。
リスト ウインドウ	選択されたプロジェクト フォルダのコンテンツを表示します。

## プロジェクトの管理

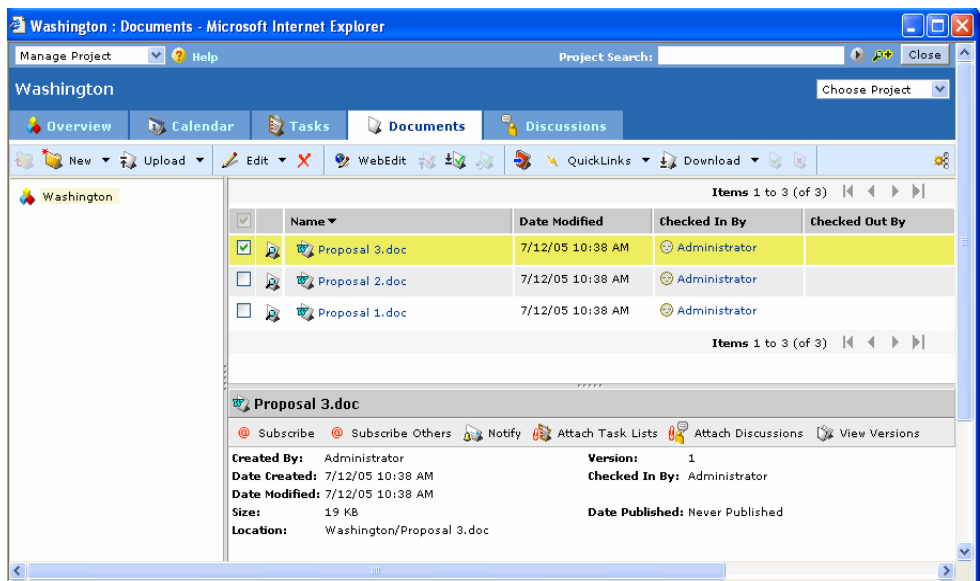
図 4-1 プロジェクト エクスプローラ



プロジェクト エクスプローラは、**マイ プロジェクト** ポートレットからアクセスできます。コミュニティ マネージャーはこのポートレットをコミュニティに追加することができます。ユーザーは、このポートレットをユーザーのマイ ページに追加することができます。

# プロジェクトのアプリケーション ビューの概要

図 4-2 プロジェクトのアプリケーション ビューの例



アプリケーション ビューには、以下に示すプロジェクトの機能エリアに対応するタブ付きの枠が表示されます。

- [ 概要 ]
- [ カレンダー ]
- [ タスク ]
- [ ドキュメント ]
- [ ディスカッション ]

プロジェクトのアプリケーション ビューに表示されるのは、プロジェクトに含まれている機能エリアのみです。プロジェクトの機能エリアの設定に関する詳細については、[4-7 ページの「プロジェクトの機能エリアの選択」](#)を参照してください。

# プロジェクトの作成および管理

この節では、Collaboration プロジェクトを作成および管理するために必要な基本作業について説明します。次の手順が含まれています。

- [プロジェクトの作成](#)
- [プロジェクトの設定](#)
- [プロジェクト エクスプローラでのプロジェクトの管理](#)

## プロジェクトの作成

プロジェクトを作成するには、次の基本作業を実行する必要があります。

1. [新しいプロジェクトの作成](#)
2. [役割と権限の設定](#)
3. [プロジェクトの機能エリアの選択](#)

## 新しいプロジェクトの作成

プロジェクトを作成するには、[**Collaboration プロジェクトの管理**] アクティビティ権が付与されている必要があります。アクティビティ権の詳細については、『**Administrator Guide for BEA AquaLogic Interaction Collaboration**』のアクティビティ権の付与に関する情報については、[3-22 ページの「アクティビティ権」](#)を参照してください。

新しいプロジェクトを作成するには次の手順を実行します。

1. [[プロジェクト エクスプローラ](#)]を開きます。
2. [[新規 | プロジェクト](#)]を選択します。
3. [[一般設定](#)]をクリックします。
4. 新しいプロジェクトを既存のプロジェクト テンプレートに基づいて作成するかどうかを決定します。



**注意：** プロジェクトを作成した後、プロジェクトテンプレートを変更することはできません。

- テンプレートを使用しない場合は、[ **空のプロジェクトの作成** ] をクリックします。
  - テンプレートを使用する場合は、[ **テンプレートベースのプロジェクトを作成** ] をクリックします。次に [ **参照** ] をクリックします。プロジェクトテンプレートを選択します。[ **終了** ] をクリックします。
5. プロジェクト名を入力します。
  6. プロジェクトのデフォルト言語を選択します。

Search Service は、この情報を Collaboration オブジェクトのインデックス処理に使用します。
  7. [ **終了** ] をクリックします。

プロジェクトの基本設定に関する詳細については、Collaboration のオンライン ヘルプを参照してください。プロジェクトへのアクセスの付与および制限、およびその他のセキュリティ関連トピックに関する詳細については、[4-13 ページの「プロジェクトへのアクセスの設定」](#)を参照してください。

## 役割と権限の設定

プロジェクトを作成した後、どのユーザーにプロジェクトへのアクセスを許可するかを決定する必要があります。プロジェクトへのユーザーの追加およびプロジェクトセキュリティの設定に関する説明については、[4-13 ページの「プロジェクトへのアクセスの設定」](#)を参照してください。

## プロジェクトの機能エリアの選択

Collaboration では、プロジェクトに含める機能エリアをコントロールすることができます。プロジェクトの機能エリアを選択するには次の手順を実行します。

1. [ **プロジェクト エクスプローラ** ] を開きます。
2. 編集するプロジェクトのチェック ボックスをクリックします。
3. [ **編集 | プロパティの編集** ] を選択します。
4. [ **機能エリア** ] をクリックします。
5. プロジェクトに含める機能エリアを選択します。

## プロジェクトの管理

6. [ 終了 ] をクリックします。

## プロジェクトの設定

プロジェクトを作成し、プロジェクトへのアクセス権限を設定した後、各機能エリアにコンテンツを追加する必要があります。例えば、以下の作業を実行すべき場合があります。

- カレンダーの追加
- ディスカッションの追加
- ドキュメントのアップロード

## プロジェクト エクスプローラでのプロジェクトの管理

プロジェクトを作成および設定した後、プロジェクト エクスプローラを使用してプロジェクトを管理することができます。この節では、プロジェクトを管理するために実行すべき場合のある作業について説明します。

## プロジェクトのプロパティの編集

プロジェクトの作成後は、プロジェクトの以下のプロパティを編集できます。

**表 4-2 プロジェクトのプロパティの説明**

プロジェクトのプロパティ	説明
[ 一般設定 ]	基本的なプロジェクトの設定を変更することができます。
[ 役割と権限 ]	以下のことを実行できます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>● プロジェクトに対するポータル ユーザー、グループ、およびコミュニティ メンバーの追加および削除。</li> <li>● 役割 (プロジェクト メンバーおよびプロジェクト ゲスト) に対するデフォルトのアクセス レベルおよび権限の設定。</li> <li>● プロジェクトのユーザー情報の手動による同期。ポータル データベースと最新の情報を同期します。</li> </ul> デフォルトでは、ユーザー情報は 1 日に 1 回、ポータルと同期されます。
[ 機能エリア ]	プロジェクトでどの機能エリアを使用するかをカスタマイズすることができます。

プロジェクトのプロパティを編集するには次の手順を実行します。

1. [ **プロジェクト エクスプローラ** ] を開きます。
2. 編集するプロジェクトのチェック ボックスをクリックします。
3. [ **編集 | プロパティの編集** ] を選択します。
4. [ **一般設定** ] をクリックします。
5. 新しいプロジェクトを既存のプロジェクト テンプレートに基づいて作成するかどうかを決定します。
  - テンプレートを使用しない場合は、[ **空のプロジェクトの作成** ] を選択します。

## プロジェクトの管理

- テンプレートを使用する場合は、[ **テンプレートベースのプロジェクトを作成** ] をクリックします。次に [ **参照** ] をクリックします。使用するプロジェクト テンプレートを選択します。[ **終了** ] をクリックします。

6. プロジェクト名を入力します。
7. プロジェクトのデフォルト言語を選択します。

Search Service は、この情報を Collaboration オブジェクトのインデックス処理に使用します。

8. [ **終了** ] をクリックします。

## プロジェクト フォルダの作成

Collaboration では、プロジェクトを一連の階層フォルダおよびサブフォルダに整理することができます。新しいプロジェクト フォルダを作成するには次の手順を実行します。

1. [ **プロジェクト エクスプローラ** ] を開きます。
2. [ **新規 | プロジェクト フォルダ** ] を選択します。
3. 新しいプロジェクト フォルダの名前を入力します。
4. [ **終了** ] をクリックします。

## プロジェクト フォルダへのプロジェクトの移動

プロジェクトをプロジェクト フォルダへ移動するには次の手順を実行します。

1. [ **プロジェクト エクスプローラ** ] を開きます。
2. 編集するプロジェクトのチェック ボックスをクリックします。
3. [ **編集 | 移動** ] を選択します。
4. [ **参照** ] をクリックします。
5. プロジェクト フォルダを選択します。
6. [ **終了** ] をクリックします。
7. [ **終了** ] をクリックします。

同じ手順を使用して、1 つのプロジェクト フォルダを別のプロジェクト フォルダに移動することができます。

## プロジェクトおよびプロジェクト フォルダの削除

プロジェクトまたはプロジェクト フォルダを削除するには次の手順を実行します。

1. [ **プロジェクト エクスプローラ** ] を開きます。
2. 削除するプロジェクトのチェック ボックスをクリックします。
3. [ **削除** ] をクリックします。
4. [ **OK** ] をクリックします。

削除したプロジェクトは、ごみ箱用のシステム フォルダに置かれます。このフォルダでは、削除されているプロジェクトを完全に削除したり、削除を取り消すことができます。

後でアクセスする可能性のあるプロジェクトを無効にする場合、プロジェクトを削除せずにアーカイブする必要があります。プロジェクトのアーカイブ作成に関する詳細については、[4-18 ページの「プロジェクトのアーカイブおよびリストア」](#)を参照してください。

# ごみ箱用のシステム フォルダからのプロジェクトの削除と削除の取り消し

削除したプロジェクトは、ごみ箱用のシステム フォルダに格納されます。このフォルダでは、削除されているプロジェクトを完全に削除したり、削除を取り消すことができます。これを実行できるのは、**Collaboration プロジェクトの管理**アクティビティ権を持つユーザーのみです。

ごみ箱用のシステム フォルダから削除されたプロジェクトは、システムからも完全に削除されます。ごみ箱用のシステム フォルダからその削除を取り消されたプロジェクトは、ユーザーが使用できる状態に戻ります。

**注意：** Collaboration には 2 種類のごみ箱があります。もう 1 つのごみ箱であるプロジェクトのごみ箱は、削除された特定のプロジェクトではなく、プロジェクトから削除された特定のアイテムの削除または復元を行うためにプロジェクト リーダーによって使用されます。

ごみ箱用のシステム フォルダ内の削除済みプロジェクトを完全に削除、またはその削除を取り消すには次の手順を実行します。

1. [ **プロジェクト エクスプローラ** ] を開きます。
2. プロジェクト エクスプローラのナビゲーション枠で [ **ごみ箱** ] ボタンをクリックします。
3. テーブル枠でプロジェクトを 1 つまたは複数選択します。
4. 次のいずれかの操作を実行します。
  - [ **削除** ] をクリックする。
  - [ **削除の取り消し** ] をクリックする。

# プロジェクトへのアクセスの設定

この節では、Collaboration プロジェクトへのアクセスを設定するために必要な手順の概要を説明します。Collaboration のセキュリティに関する基本的な情報については、[3-19 ページの「Collaboration のセキュリティの処理」](#)を参照してください。

## プロジェクトへのユーザーの追加

この節では、プロジェクトに対するアクセス権限を制御する手順について説明します。Collaboration では、ユーザーにセキュリティの役割を割り当てることができます。各役割には、異なる編集権限のセットが設定されています。ユーザー タイプは、ポータル ユーザー、グループ、およびコミュニティ メンバーです。

プロジェクトへのアクセスを設定するには次の手順を実行します。

1. [ **プロジェクト エクスプローラ** ] を開きます。
2. 編集するプロジェクトのチェック ボックスをクリックします。
3. [ **編集 | プロパティの編集** ] を選択します。
4. [ **役割と権限** ] をクリックします。
5. ユーザーを追加するセキュリティの役割を決定します。  
セキュリティの役割に関する詳細については、[3-19 ページの「Collaboration のセキュリティの処理」](#)を参照してください。
6. 追加するユーザー タイプに対応するボタンをクリックします。次の 1 つを選択することができます。
  - [ **ユーザーの追加** ]
  - [ **グループの追加** ]
  - [ **コミュニティ メンバーの追加** ]
7. 追加するユーザーを選択します。
8. [ **OK** ] をクリックします。

# 役割のデフォルト権限の変更

Collaboration では、プロジェクト メンバーおよびプロジェクト ゲストのデフォルトのセキュリティ設定を変更できます。

1. [プロジェクト エクスプローラ]を開きます。
2. 編集するプロジェクトのチェック ボックスをクリックします。
3. [編集 | プロパティの編集]を選択します。
4. [役割と権限]をクリックします。
5. [権限の編集]をクリックします。
6. 必要なセキュリティ設定を選択します。

これらの設定によるプロジェクトの機能エリアへの影響については、[4-13 ページの「プロジェクトへのアクセスの設定」](#)を参照してください。

7. [終了]をクリックします。

## プロジェクトからのユーザーの削除

ポータル ユーザー、グループ、またはコミュニティ メンバーを削除するには次の手順を実行します。

1. [プロジェクト エクスプローラ]を開きます。
2. 編集するプロジェクトのチェック ボックスをクリックします。
3. [編集 | プロパティの編集]を選択します。
4. [役割と権限]をクリックします。
5. 削除するユーザー、グループ、またはコミュニティ メンバーの隣の[削除]をクリックします。
6. [OK]をクリックします。
7. [終了]をクリックします。



# プロジェクト テンプレートの使用方法

プロジェクト テンプレートによって、ユーザーは、類似したプロジェクトを作成できます。プロジェクト マネージャーおよびシステム管理者は、プロジェクト テンプレートを使用して、組織内で使用されるプロジェクト間の一貫性を保持することができます。

## プロジェクト テンプレートの作成

プロジェクト テンプレートを作成するには次の手順を実行します。

1. [ **プロジェクト エクスプローラ** ] を開きます。
2. [ **テンプレート プロジェクト フォルダ** ] を選択します。
3. [ **新規 | プロジェクト テンプレート** ] を選択します。
4. [ **一般設定** ] をクリックします。
5. 新しいプロジェクトを既存のプロジェクト テンプレートに基づいて作成するかどうかを決定します。
  - テンプレートを使用しない場合は、[ **空のプロジェクトの作成** ] をクリックします。
  - テンプレートを使用する場合は、[ **テンプレートベースのプロジェクトを作成** ] をクリックします。次に、[ **参照** ] をクリックしてから、使用するプロジェクト テンプレートを選択します。[ **終了** ] をクリックします。
6. プロジェクト テンプレートの名を入力します。
7. プロジェクト テンプレートのデフォルト言語を選択します。

Search Service は、この情報を Collaboration オブジェクトのインデックス処理に使用します。
8. 使用する日付移動の方法を選択します。
9. テンプレート基準日を入力します。

日付移動の方法およびテンプレート基準日に関する詳細については、[4-16 ページの「プロジェクトのテンプレート基準日の設定」](#)を参照してください。
10. [ **終了** ] をクリックします。

# プロジェクトのテンプレート基準日の設定

プロジェクト テンプレート内のタスク、マイルストーン、およびイベントの日付は、単独では意味を持ちません。これらは、テンプレート内の日付と基準日との間の相対的な位置関係によって重要性を持ちます。

プロジェクト テンプレートから新しいプロジェクトを作成する場合、プロジェクトの開始日を指定します。プロジェクト テンプレートからタスク、マイルストーン、およびイベントが新しいプロジェクトにコピーされる際、それらの日付は、プロジェクトの開始日に関連して設定されます。このプロセスは、日付移動と呼ばれます。

Collaboration では、プロジェクト テンプレートを作成する際に、次のタイプの日付移動を指定することができます。

表 4-3 日付移動の方法のタイプ

日付移動の方法	説明
日付をプロジェクト テンプレートから直接コピーする	この方法では、日付が、直接プロジェクト テンプレートから新しいプロジェクトにコピーされます。
プロジェクトの開始日を指定する ( 土日および祝日を除外 )	この方法は、プロジェクトの開始からの営業日数が重要である場合に使用されます。
プロジェクトの開始週を指定する ( 曜日を保持 )	この方法は、プロジェクトの開始からの週数および曜日が重要である場合に使用されます。
プロジェクトの開始月を指定する ( その月の営業日を保持 )	この方法は、プロジェクトの開始からの月数およびその月の営業日が重要である場合に使用されます。

## プロジェクト テンプレートのセキュリティの定義

プロジェクト テンプレートから作成されたプロジェクトへのアクセス権限を所有するユーザーを制御するために、プロジェクト テンプレートには次のアクセス レベルを割り当てることができます。

**表 4-4 アクセス レベルのタイプ**

アクセス レベル	説明
プロジェクト リーダー	このアクセス レベルを持つプロジェクト テンプレートを使用して作成されたプロジェクトは、プロジェクト リーダーのみがアクセスできます。
プロジェクト メンバー	このアクセス レベルを持つプロジェクト テンプレートを使用して作成されたプロジェクトは、プロジェクト メンバーおよびプロジェクト リーダーのみがアクセスできます。
プロジェクト ゲスト	このアクセス レベルを持つプロジェクト テンプレートを使用して作成されたプロジェクトは、全てのユーザーがアクセスできます。

プロジェクト テンプレートそのものへのアクセスを制御することも可能です。プロジェクト リーダーの役割を、以下を行うために使用することができます。

- プロジェクト テンプレートから作成されるプロジェクトのアクセス コントロールの指定
- プロジェクト テンプレートそのものへのアクセスの制御

プロジェクト リーダーの役割を持つユーザーは、プロジェクト テンプレートの全ての部分へのフル アクセス権限を持ちます。プロジェクト リーダーの役割を持たないユーザーは、プロジェクト テンプレートのどの部分にも一切アクセスできません。

# プロジェクトのアーカイブおよびリストア

プロジェクト リーダーまたはシステム管理者は、プロジェクトをアーカイブし、プロジェクト ユーザーがアクセスできないようにすることができます。プロジェクトをアーカイブすると、そのプロジェクトを検索することはできません。また、そのプロジェクトを参照する通知を送信することはできません。

プロジェクトをアーカイブすることによって、プロジェクトのデータを喪失することなく、非アクティブのプロジェクトまたは終了したプロジェクトを取り除くことができます。プロジェクトは、アーカイブしても、**Collaboration** のデータベースからは削除されません。[アーカイブされたプロジェクト] フォルダからプロジェクトをリストアすれば、ユーザーがそれらのプロジェクトにアクセスできるようになります。

プロジェクトをアーカイブしたり、[アーカイブされたプロジェクト] フォルダからプロジェクトをリストアできるのは、**Collaboration プロジェクトの管理** アクティビティ権を持つユーザーのみです。

## プロジェクトのアーカイブ

プロジェクトをアーカイブするには次の手順を実行します。

1. [ **プロジェクト エクスプローラ** ] を開きます。
2. アーカイブするプロジェクトのチェック ボックスをクリックします。
3. [ **アーカイブ** ] をクリックします。
4. [ **OK** ] をクリックします。

プロジェクトは、[アーカイブされたプロジェクト] フォルダに移動されます。

## [アーカイブされたプロジェクト] フォルダからのプロジェクトのリストア

[アーカイブされたプロジェクト] フォルダからプロジェクトをリストアするには次の手順を実行します。

1. [プロジェクト エクスプローラ]を開きます。
2. [アーカイブされたプロジェクト] フォルダをクリックします。
3. リストアするプロジェクトのチェック ボックスをクリックします。
4. [リストア]をクリックします。
5. [OK]をクリックします。

プロジェクトは、Collaboration のフォルダ階層のトップ レベルにリストアされます。

## プロジェクトのエクスポート

[Collaboration リソース] ページでは、エクスポートするプロジェクトを選択し、メタデータを含むすべてのコンテンツをエクスポートするか、メタデータのみをエクスポートするかを選択できます。メタデータには、プロジェクトのセキュリティ情報、およびプロジェクト名、説明、作成日などのその他の情報が含まれます。

このページの設定が完了した後に [終了] をクリックすると、プロジェクトの .pte ファイルと .zip ファイルが作成されます。この処理が完了すると、.pte ファイルへのリンクがダイアログ ボックスに表示されます。.pte ファイルには、ポータルおよび Collaboration のオブジェクトが含まれます。このリンクをクリックして、使用しているコンピュータに .pte ファイルをダウンロードします。.zip ファイルには、Collaboration のオブジェクトのみが含まれます。.zip ファイルは次の場所に保存されます。<collab install>/migration/export

[Collaboration リソース] ページにアクセスするには次の手順を実行します。

1. [管理] をクリックします。
2. [ユーティリティの選択] ドロップダウン リストから [移行 - エクスポート] を選択します。

## プロジェクトの管理

3. 左側にある [ リソース ] で [ **Collaboration** リソース ] をクリックします。

**注意：** ptmigration コマンドライン ツールを使用して、Collaboration オブジェクトが含まれる移行パッケージを作成することはできません。

# Collaboration の統合

この章では、Microsoft Windows デスクトップ、バックエンドのグループウェア サーバー、および Microsoft Project と共に Collaboration を使用できる機能について説明します。この機能によって、Collaboration を単一の作業環境に統合することができ、ユーザーはより効率的に作業できるようになります。この章には次の節が含まれています。

- Collaboration とデスクトップの統合
- Collaboration とグループウェアの統合
- Collaboration とインスタント メッセージ機能の統合
- Microsoft Project のインポートの設定
- プロジェクトの電子メール機能の設定

# Collaboration とデスクトップの統合

この節では、Microsoft Windows デスクトップとの統合を可能にする Collaboration の機能の設定および管理について説明します。この節の内容は次のとおりです。

- [WebDAV プロトコルの概要](#)
- [ウェブ フォルダの設定](#)
- [ウェブ編集の設定方法](#)

## WebDAV プロトコルの概要

Collaboration のデスクトップ統合機能では、WebDAV ( ウェブベースのドキュメント作成およびバージョンング ) プロトコルが必要となります。WebDAV は、HTTP プロトコルの拡張プロトコルです。WebDAV サービスは、Collaboration のインストーラを通してインストール時にインストールおよび設定できます。

**注意：** Collaboration のインストール時に WebDAV サービスをインストールすることを選択しなかった場合、この機能を有効にするために、インストーラを再度実行し、WebDAV サービスをインストールすることを選択する必要があります。

## ウェブ フォルダの設定

Collaboration では、ユーザーが Microsoft Windows Explorer を使用して、デスクトップから Collaboration ドキュメントを直接管理することができます。ウェブ フォルダをマッピングした後、ユーザーは、Collaboration プロジェクト内のドキュメントにアクセス、編集、および共有でき、または、新しい Collaboration プロジェクトを作成することができます。[Collaboration の設定] の [ウェブ フォルダの設定] ページでは、Microsoft Windows Explorer からアクセスするドキュメントを持つプロジェクトを選択できます。



Windows Explorer を使用して開いたドキュメントは、自動的に編集モードで開き、Collaboration からチェックアウトされます。これによって、ユーザーは、ドキュメントをチェックアウトおよびダウンロードする必要がなくなるので、さらに効率良く作業することができます。全てのセキュリティおよびバージョン管理の処理は、Collaboration によって行われます。

## アクティビティ権の追加

ウェブ フォルダを Collaboration にマッピングするには、[Collaboration への一括アップロード] アクティビティ権が付与されたグループに属している必要があります。このアクティビティ権によって、ユーザーは、一括アップロード機能を使用することが可能になります。

このアクティビティ権をグループに付与するには次の手順を実行します。

1. [管理] タブをクリックします。
2. [アクティビティ マネージャ] ユーティリティを選択します。
3. [Collaboration への一括アップロード] をクリックします。
4. [グループの追加] をクリックします。
5. このアクティビティ権を付与するグループを選択します。
6. [OK] をクリックします。
7. [終了] をクリックします。

アクティビティ権の管理方法の詳細については、『Administrator Guide for BEA AquaLogic Interaction』を参照してください。

## ウェブ フォルダと IIS の使用

ポータルが IIS を実行している際に、ウェブ フォルダのマッピング機能を使用する場合、ポータルが導入されている IIS ウェブ サイト上で、Front Page サーバー エクステンションが無効になっていることを確認する必要があります。

1. [スタート | プログラム | 管理ツール | インターネット サービス マネージャ] を選択します。
2. ポータルで使用するウェブ サイトを右クリックします。

3. [プロパティ] を選択します。
4. [サーバー エクステンション] タブを選択します。

サーバーがサーバー エクステンションを使用するように設定されていないということを示すメッセージが表示されれば、IIS は正しく設定されます。

[**Enable authoring**] チェック ボックスが表示された場合、そのチェック ボックスが選択されていないことを確認してください。

# Collaboration Office ツール アドイン インストーラをエンド ユーザーが使用できるようにする方法

Collaboration Office ツール アドインを使用すると、エンド ユーザーは、チェックイン オプションを選択し、チェックイン コメントを追加することができます。アドイン用のダイアログ ボックスは、ウェブ編集または使用しているコンピュータ上のウェブ フォルダでドキュメントを編集して閉じると表示されます。

この機能を使用するには、Collaboration Office ツール アドインが、使用するコンピュータ上にインストールされている必要があります。ただし、ウェブ編集はアドインがインストールされていなくても正しく機能します。管理者は、ユーザーにアドインのインストーラを使用してもらうか、アドインをダウンロードしてもらいます。

エンド ユーザーにインストーラを使用してもらうには、使用している言語に適した .msi ファイルを使用します。

- ALICollaborationOfficeTools.msi ( 英語およびその他のヨーロッパ言語 )
- ALICollaborationOfficeTools\_ja ( 日本語 )
- ALICollaborationOfficeTools\_ko ( 韓国語 )
- ALICollaborationOfficeTools\_zh ( 中国語 )
- ALICollaborationOfficeTools\_zh-tw ( 繁体字中国語 )

.msi ファイルはすべて以下の場所にあります。

## Collaboration Office ツール アドイン インストーラをエンド ユーザーが使用できる

<PT\_HOME>\ptimages\imageserver\plumtree\collab\private\applets

インストーラをエンド ユーザーがダウンロードできるようにするには、次のようにします。config.xml 内の

**installOfficeToolsPopUp enabled** パラメータを **yes** に設定します。

インストーラ **ALICollaborationOfficeTools.exe** は次の場所にあります。

<PT\_HOME>\ptimages\imageserver\plumtree\collab\private\applets

## ウェブ フォルダのマップ

この節では、ウェブ フォルダのマップ方法について説明します。Collaboration の実稼動環境に導入する前に、これらの手順をテストすることをお勧めします。

ウェブ フォルダのマップ機能は、ユーザーが、Microsoft Windows を導入しているユーザーの PC のネットワーク プレイスを、Collaboration のドキュメント階層にマッピングできるようにします。これにより、ユーザーは、Windows Explorer を使用して、ドキュメント階層を表示することができるようになります。Collaboration のフォルダおよびファイルが、Explorer 内のフォルダおよびファイルとして表示されます。

**注意：** マップされたウェブ フォルダには、名前に # または : 記号が含まれる Windows フォルダは格納されません。これらの記号が含まれる Windows フォルダ名は、Collaboration のプロジェクト内では正常に表示されません。

**注意：** プロジェクトのサブフォルダ内で Windows フォルダを移動すると、そのフォルダを削除するかどうかを確認する Windows のダイアログが表示されます。[ はい ] をクリックします。そのフォルダは、Windows で削除できないというメッセージが表示されたとしても、所定の場所に移動されます。これが Windows の正常な動作です。

**Windows 2000 でウェブ フォルダをマップするには次の手順を実行します。**

1. [ **ウェブ フォルダの場所** ] ボックスの URL をコピーします。
2. デスクトップの [ **マイ ネットワーク** ] を開きます。
3. [ **ネットワーク プレースの追加** ] をダブルクリックします。[ **ネットワーク プレースの追加ウィザード** ] が表示されます。
4. [ **ネットワーク プレースの場所を入力してください** ] ボックスに URL を貼り付けます。次に、[ **次へ** ] をクリックします。

## Collaboration の統合

5. プロンプトされた場合、名前とパスワードを入力し、[OK] をクリックします。
6. [このネットワーク プレースの名前を入力してください] ボックスに名前を入力し、[完了] をクリックします。  
新しいネットワーク プレイスが作成され、Collaboration は、Windows Explorer にマッピングされます。

**Windows XP でウェブ フォルダをマップするには次の手順を実行します。**

1. [ウェブ フォルダの場所] ボックスの URL をコピーします。
2. デスクトップの [マイ ネットワーク] を開きます。
3. [ネットワーク プレースの追加] をダブルクリックします。[ネットワーク プレースの追加ウィザード] が表示されます。
4. [次へ] をクリックします。
5. [別のネットワークの場所を選択] を選択します。
6. [インターネットまたはネットワークのアドレス] ボックスに URL を貼り付けて、[次へ] をクリックします。
7. プロンプトされた場合、名前とパスワードを入力し、[OK] をクリックします。
8. [このネットワーク プレースの名前を入力してください] ボックスに名前を入力し、[完了] をクリックします。  
新しいネットワーク プレイスが作成され、Collaboration は、Windows Explorer にマッピングされます。

**Windows 2003 でウェブ フォルダをマップするには次の手順を実行します。**

1. [ウェブ フォルダの場所] ボックスの URL をコピーします。
2. デスクトップの [マイ ネットワーク] を開きます。
3. [ネットワーク プレースの追加] をダブルクリックします。[ネットワーク プレースの追加ウィザード] が表示されます。
4. [次へ] をクリックします。
5. [別のネットワークの場所を選択] を選択します。
6. [インターネットまたはネットワークのアドレス] ボックスに URL を貼り付けて、[次へ] をクリックします。

7. プロンプトされた場合、名前とパスワードを入力し、[ 次へ ] をクリックします。
8. [ このネットワーク プレースの名前を入力してください ] ボックスに名前を入力し、[ 次へ ] をクリックします。
9. [ 完了 ] をクリックします。

新しいネットワーク プレースが作成され、Collaboration は、Windows Explorer にマッピングされます。

# ウェブ フォルダの設定ファイルでの設定

この節では、ウェブ フォルダ機能用の設定ファイルの設定について説明します。

表 5-1 ウェブ フォルダ機能用の config.xml のノード

ノード	説明
fullWebDAVAccessToThisServer	WebDAV の使用を有効または無効にします。有効値は次のとおりです。 <b>yes</b> : Collaboration で WebDAV 要求を受け付けるようにします。これがデフォルト値です。 <b>no</b> : Collaboration で WebDAV 要求を拒否するようにします。
requestsAreGatewayed	Windows Explorer と Collaboration との間の WebDAV 通信を有効 / 無効にします。有効値は <b>true</b> および <b>false</b> です。
uiDisplaysServerConfigInfo	Collaboration が [ ドキュメント ] タブの [ 新規   ウェブ フォルダ ] ダイアログを表示する方法を制御します。有効値は次のとおりです。 <b>yes</b> : [ ウェブ フォルダ ] ダイアログ ボックスを表示します。これがデフォルト値です。 <b>no</b> : [ ウェブ フォルダ ] ダイアログ ボックスを表示しません。

表 5-1 ウェブ フォルダ機能用の config.xml のノード

ノード	説明
useNonGatewayedURL	<p>[ ウェブ フォルダ ] ダイアログ ボックスでゲートウェイ処理されるネットワーク ドライブをマッピングする手順を表示するかどうかを決定します。</p> <p>有効値は次のとおりです。</p> <p><b>no</b> : [ ウェブ フォルダ ] ダイアログで、ゲートウェイを通して Windows Explorer と Collaboration との間をマッピングすることに関する情報が表示されます。これがデフォルト値です。</p> <p><b>yes</b> : [ ウェブ フォルダ ] ダイアログで、Windows Explorer と Collaboration の間を直接マッピングすることに関する情報を表示します。</p> <p><b>注意</b> : Windows Explorer と Collaboration との間の通信をゲートウェイ処理する場合、Collaboration のこのインスタンスは、WebDAV サービスとして機能し続けます。したがって、config.xml のこのインスタンスでは、<b>fullWebDAVAccessToThisServer.enabled</b> および <b>fullWebDAVAccessToThisServer.requestsAreGatewayed</b> を <b>true</b> に設定する必要があります。</p>
serverURL	<p>Collaboration が、直接 Windows Explorer と通信するように設定されている場合、WebDAV サービスとして稼動する Collaboration に基本 URL を設定します。</p>

## Collaboration Office ツール アドイン インストーラをエンド ユーザーが使用できる

以下に、config.xml のウェブ フォルダ セクションの例を示します。

```
<webDAV>
  <fullWebDAVAccessToThisServer enabled="yes">
    <requestsAreGatewayed>false</requestsAreGatewayed>
  </fullWebDAVAccessToThisServer>
  <uiDisplaysServerConfigInfo enabled="yes">
    <useNonGatewayedURL enabled="yes">
      <serverURL>http://server.yourco.com:8080/collabserver</serverURL>
    </useNonGatewayedURL>
  </uiDisplaysServerConfigInfo>
</webDAV>
```

## ウェブ編集の設定方法

ウェブ編集によって、Collaboration のユーザーは、デスクトップ上で、Microsoft Office ドキュメントを直接編集することができます。ユーザーは、ドキュメントをチェックアウトし、マシンにダウンロードすることなく、直接ドキュメントを編集することができます。Collaboration は、チェックアウトおよびセキュリティのプロセスを処理します。

ユーザーは、Microsoft Internet Explorer 5.0 またはそれ以上を実行している必要があります。ウェブ編集は、以下のドキュメント タイプに対応しています。

- Microsoft Word
- Microsoft Excel
- Microsoft Office

## ウェブ編集と IIS の使用

ポータルが IIS を実行している際にウェブ編集機能を使用する場合、ポータルが導入されている IIS ウェブ サイト上で、Front Page サーバー エクステンションが無効になっていることを確認する必要があります。

1. [ スタート | プログラム | 管理ツール | インターネット サービス マネージャ ] を選択します。

- 2. ポータルで使用するウェブ サイトを右クリックします。
- 3. [プロパティ] を選択します。
- 4. [サーバー エクステンション] タブを選択します。

サーバーがサーバー エクステンションを使用するように設定されていないということを示すメッセージが表示されれば、IIS は正しく設定されます。

[Enable authoring] チェック ボックスが表示された場合、そのチェック ボックスが選択されていないことを確認してください。

## ウェブ編集の設定ファイルでの設定

この節では、ウェブ編集機能用の設定ファイルの設定について説明します。

### config.xml

config.xml には、次のノードおよび属性が含まれています。

表 5-2 ウェブ編集機能用の config.xml のノード

ノードまたは属性	説明
webEdit	ウェブ編集を有効または無効にします。有効値は <b>yes</b> および <b>no</b> です。
nonGatewayedAccess	Microsoft Office と Collaboration との間の HTTP 通信が、ポータルを通してゲートウェイ処理されるかどうかを決定します。有効値は次のとおりです。 <b>yes</b> : HTTP 通信は、ポータルを通してゲートウェイ処理されます。これがデフォルト値です。 <b>no</b> : HTTP 通信は、ポータルを通してゲートウェイ処理されません。
serverURL	Microsoft Word が Collaboration との通信に使用する基本 URL。この属性は、enable が <b>true</b> に設定されている場合に使用されます。 例 : http://collab.myco.com:8080/collabserver



表 5-2 ウェブ編集機能用の config.xml のノード

ノードまたは属性	説明
tokenBasedAuthentication	<p>トークンベースの認証が使用されるかどうかを決定します。通常の Collaboration の実装では、これらの値を変更する必要はありません。有効値は次のとおりです。</p> <p><b>true</b> : トークンベースの認証を有効にします。これがデフォルト値です。</p> <p><b>false</b> : トークンベースの認証を無効にします。この設定は、HTTP 通信がゲートウェイ処理されており、別の認証方法が使用されている場合のみ使用することができます。</p>
useClustering	<p>トークンベースの認証でのメッセージのクラスタリング (ロード バランシングとも呼ばれる) の使用を制御します。有効値は次のとおりです。</p> <p><b>yes</b> : メッセージのクラスタリングを有効にします。これがデフォルト値です。</p> <p><b>no</b> : メッセージのクラスタリングを無効にします。この設定は、メッセージのクラスタリングが必要なく、パフォーマンスを低下させる場合のみ使用します。</p> <p><b>注意</b> : Collaboration で基本クラスタリング機能が無効になっている場合、この設定は無視されます。したがって、<b>useClustering</b> は常時有効にしておくことをお勧めします。</p>
maxWaitSeconds	<p>Collaboration がクラスタ内の別のサーバーからの応答を待つ時間を決定します。この設定は、トークンベースの認証およびメッセージクラスタリング (ロード バランシング) が有効になっている場合のみ適用されます。</p> <p><b>デフォルト</b> : 30</p>
truncateFileNames	<p>WebDAV で表示されるファイル名で許可される文字数。この数を超えた文字は切り捨てられます。</p>
clsid	<p>COM オブジェクトのクラス ID を指定します。</p> <p><b>注意</b> : この値は変更しないでください。</p>

表 5-2 ウェブ編集機能用の config.xml のノード

ノードまたは属性	説明
fileSpec	配布ファイルの名前およびコンポーネントに関する情報を指定します。  <b>注意：</b> この値は、オブジェクトの最新バージョンを導入する必要がある場合以外は変更しないでください。
installOfficeToolsPopUp enabled	Collaboration Office ツール アドイン インストーラを有効または無効にします。有効値は <b>yes</b> および <b>no</b> です。

以下に **config.xml** の WebEdit セクションの例を示します。

```
<webEdit enabled="yes">
  <nonGatewayedAccess enabled="no">
    <serverURL>@WEB_EDIT_COLLAB_SERVER_BASE_URL@</serverURL>
  </nonGatewayedAccess>
  <tokenBasedAuthentication enabled="true">
    <useClustering enabled="yes">
      <MaxWaitSeconds>30</maxWaitSeconds>
    </useClustering>
  </tokenBasedAuthentication>
  <truncateFileNames>75</truncateFileNames>
  <clientControl>
    <clsid>68473829-414C-A45B-ABEE249E704A</clsid>
    <fileSpec>PTCollabWebEditControl.CAB#version=1,0,0,0</fileSpec>
  </clientControl>
</installOfficeToolsPopUp enabled="yes" />
</webEdit>
```

## filetypes.xml

filetypes.xml には、次のノードおよび属性が含まれています。

表 5-3 filetypes.xml のノード

ノードまたは属性	説明
webEdit	当該ファイル タイプがウェブ編集可能かどうかを指定します。本格的な変更をコードに加えない限り、Microsoft Office アプリケーションのみがウェブ編集可能です。有効値は <b>yes</b> および <b>no</b> です。
appCode	ウェブ編集セッションでドキュメントを開くアプリケーションを表します。有効値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>1</b> (Microsoft Word)</li> <li>• <b>2</b> (Microsoft Excel)</li> <li>• <b>3</b> (Microsoft PowerPoint)</li> </ul>

以下に filetypes.xml の WebEdit セクションの例を示します。

```
<webEdit enabled="yes">
  <appCode>1</appCode>
</webEdit>
```

## Collaboration とグループウェアの統合

Collaboration は、バックエンドのグループウェア サーバーを統合できるようにします。グループウェアの統合機能を使用すると、以下の操作を実行できます。

- マイ カレンダー ポートレットを通した、グループウェア カレンダー上のアイテムへのアクセス
- アポイントメントおよび会議要求の作成
- Collaboration カレンダーとグループウェア カレンダーの同期

## Collaboration の統合

**注意：** グループウェアの統合は、プロジェクトの電子メール機能を使用するユーザーに対しては必要ありません。プロジェクトの電子メール機能の詳細については、[5-24 ページの「プロジェクトの電子メール機能の設定」](#)を参照してください。また、グループウェアの統合機能を使用するために、プロジェクトからユーザーへの電子メール通知の生成および送信に使用される通知サービスは必要ありません(ただし、通知サービスが実行されていない場合、プロジェクトの電子メール機能の有用性は低くなります)。

バックエンド グループウェアの接続は、Collaboration 管理者が設定します。グループウェア サーバーが設定されていない場合、エンド ユーザーは、グループウェア統合機能を使用できません。

次のグループウェア サーバーがサポートされています。

- Microsoft Exchange 2000 SP3 以上
- Microsoft Exchange 2003
- Lotus Domino 5.0.11

## グループウェアの統合の基本タスクの実行

この節では、グループウェアの統合を有効にするために必要な基本設定について説明します。以下の設定を行う必要があります。

- config.xml の編集

**注意：** 最初に製品をインストールした後、直ぐにバックエンド サーバーを設定しない場合は、config.xml でグループウェアの統合を無効にする必要があります。これによって、統合関連のグラフィカル ユーザー インタフェース エlement がエンド ユーザーに表示されることを防ぐことができます。

グループウェアの統合を有効にするには、下記の config.xml のフィールドを設定する必要があります。

- groupware.enabled
- groupware.type
- groupware.soapServerURL

**注意：** groupware.soapServerURL は、Microsoft Exchange に対してのみ適用されます。

これらのフィールドおよび config.xml に関する詳細については、[5-17 ページの「自動同期の設定」](#)を参照してください。インストール時にグループウェアを統合することを選択すると、これらのフィールドは、Collaboration のインストーラによって設定されます。

- グループウェア サーバーの設定
  - a. ポータルにログインします。
  - b. [ 管理 ] タブをクリックします。
  - c. [ Collaboration 管理 ] ユーティリティを選択します。
  - d. [ グループウェア サーバー ] をクリックします。
  - e. [ サーバーの追加 ] をクリックします。
  - f. 設定情報を入力します。

Microsoft Exchange を使用する場合、次を入力します。

**表 5-4 Collaboration 管理ユーティリティでの Microsoft Exchange の統合値**

ノードまたは属性	説明
[ サーバー Name/IP/URL ]	<p>グループウェア サーバーのサーバー名、IP アドレス、または URL。</p> <p><b>注意：</b> Collaboration をアップグレードしている場合、3.x バージョンの設定ファイルの <b>serverURL</b> エLEMENT の値を使用し、http:// プロトコルプレフィックスを追加する必要があります。</p> <p><b>例：</b> http://mail.company.com/exchange</p>
[ エイリアス ]	このグループウェア サーバーのオプションの記述名。

## Collaboration の統合

Lotus Domino を使用する場合、次を入力してください。

**表 5-5 Collaboration 管理ユーティリティでの Lotus Domino の統合値**

ノードまたは属性	説明
[ サーバー Name/IP/URL ]	グループウェア サーバーのサーバー名、IP アドレス、または URL。 例 : http://mail.company.com/notes
[ エイリアス ]	エンドユーザーが使用できる、このグループウェア サーバーのオプションの記述名。 例 : MyCompany Notes Server
[ サーバー ポート ]	サーバーのポート番号が 80 以外である場合、そのポート番号を入力します。80 の場合は空白のままにします。
[ プロキシ ホスト / ファイアウォール ポート ]	プロキシ サーバーまたはファイアウォールを使用する場合、そのホスト名を入力します。使用しない場合は空白のままにします。
[ SSL の使用 ]	https を使用する場合、チェック ボックスを選択します。
[ HTTPS ポート ]	443 以外の https ポート番号を使用する場合、ポート番号を入力します。443 を使用する場合は空白にします。
[ セッション ベースの認証 ]	フォーム ベースの認証 ( クッキー ) を使用する場合は、チェック ボックスを選択します。基本認証を使用する場合は、チェック ボックスをクリアします。
[ Notes サーバーの Temp Dir ]	新しい添付ファイルを一時的に格納する Lotus Domino サーバーのローカル ディレクトリを入力します。 例 : C:\Temp
[ Notes サーバーの Temp UNC ]	添付ファイルを格納する Lotus Domino サーバーのディレクトリの UNC パスを入力します。これは、[ Notes サーバーの Temp Dir ] のディレクトリと同じディレクトリである必要があります。次に例を示します。\\<Lotus Domino server name>\<directory name>

- ユーザー アカウントの設定

グループウェアの統合を使用するには、各ユーザーは、ユーザーのアカウントを設定するために、次の手順を実行する必要があります。

- a. ポータルにログインします。
- b. [ **マイ アカウント** ] をクリックします。
- c. [ **Collaboration の設定** ] をクリックします。
- d. [ **カレンダーの同期** ] をクリックします。
- e. 必要なアカウント情報を入力します。
- f. [ **終了** ] をクリックします。

## 自動同期の設定

Collaboration では、グループウェアと Collaboration の個々のユーザーのカレンダー間で自動同期を行うことができます。グループウェアのアポイントメントがインポートされる場合、またはカレンダー アイテムがエクスポートされる場合、Collaboration は、それらの間のリンクを作成します。また、Collaboration は、グループウェア サーバー上の項目が Collaboration のカレンダー項目と異なる場合、グループウェア サーバー上の項目を更新します。

ユーザーは、カレンダーのツールバーにある [ **同期** ] ボタンを使用して、グループウェア上の項目とカレンダー項目の間の同期を手動で行うことができます。また、Collaboration の管理者は、**calendarAutoSynch** エlementを **yes** に設定することによって、自動同期を有効にすることができます。この機能を有効にした後、ユーザーは、[ **マイ アカウント** ] ページから、カレンダーのどのアイテムを自動同期するかを指定することができます。

自動同期を有効にした場合、Collaboration は、夜間に処理を実行し、各ユーザーに対して指定された項目を更新します。

**注意：** Microsoft Exchange の場合、ユーザーが空いているかどうかの情報がグループウェア サーバーに更新され、Collaboration カレンダーで使えるようになるまでの時間は、ユーザーが、Microsoft Exchange カレンダーのフリー / ビジー オプションを設定する間隔によって異なります。

# 添付ファイルのサイズ制限

Collaboration 管理者は、各アポイントまたは会議要求が持つことができる添付ファイルのサイズ制限を設定することができます。この制限は、個々の添付ファイルではなく、全ての添付ファイルの合計サイズとして設定されます。添付ファイルの合計サイズがサイズ制限を超えた場合、警告が表示され、アップロード処理がキャンセルされます。

# グループウェアの統合のための設定ファイルでの設定

この節では、**config.xml** 設定ファイルにおけるグループウェア統合のための設定について説明します。

表 5-6 グループウェア統合用の config.xml のノード

ノードまたは属性	説明
groupware	このノードは、グループウェアの統合を設定するために使用されます。有効値は次のとおりです。 <b>yes</b> : グループウェアの統合を有効にします。 <b>no</b> : グループウェアの統合を無効にします。この設定が使用された場合、この節の他の設定は全て無視されます。
type	使用されるバックエンド サーバーのタイプを示します。有効値は次のとおりです。 <b>notes</b> : Lotus Domino グループウェア サーバーを有効にします。 <b>exchange</b> : Microsoft Exchange グループウェア サーバーを有効にします。
soapServerURL	Collaboration のインストール時に指定される SOAP サーバーの URL を指定します。



表 5-6 グループウェア統合用の config.xml のノード

ノードまたは属性	説明
timeoutInMilliSecond	<p>Collaboration が SOAP サーバーからの応答を待つ時間を、ミリ秒単位で指定します。SOAP サーバーがこの時間内に応答しなかった場合、現在の操作は中止され、例外が返されます。</p> <p><b>注意：</b> パフォーマンスの制限や、大きな添付ファイルが Exchange を通して Collaboration に転送されることがあるため、この属性は、10000 (10 秒) を超える値に設定する必要があります。</p>
calendarCachePeriod	<p>マイ カレンダーのポートレットのグループウェア アイテムに対する、キャッシュのタイムアウト期間を、秒単位で指定します。マイ カレンダーのポートレットが更新された場合、Collaboration は、現在のアイテムがタイムアウトになっているかどうかを確認します。タイムアウトになっている場合、Collaboration は、バックエンドサーバーから項目を取得します。タイムアウトになっていない場合、項目はメモリから取得されます。</p>
addressBookReturn	<p>アドレス検索操作で返されるアドレスの最大数。</p>
maxAttachmentSizeinKB	<p>会議要求またはアポイントメントに含めることができる添付ファイルの KB 単位の最大サイズ。</p> <p><b>注意：</b> この制限は、アイテムが持つことができる全ての添付ファイルの合計サイズです。</p>
calendarAutoSynch	<p>次の値がサポートされます。</p> <p><b>yes：</b> ユーザーのプロジェクト カレンダーと Exchange または Notes のカレンダーとの自動同期を有効にします。</p> <p><b>no：</b> ユーザーのプロジェクト カレンダーと Exchange または Notes のカレンダーとの自動同期を無効にします。</p>
month.Range	<p>現在の月から開始して自動同期が適用される月数の範囲。</p>
email	<p>このノードは、ユーザーが、現在使用しているグループウェアからプロジェクトに電子メールを直接送信できるように設定するために使用されます。</p>

以下に、**config.xml** のグループウェアの統合セクションの例を示します。

```
<groupware enabled="yes" type="exchange">
  <soapServerURL timeoutInMiliSecond="10000">http://server.
mycompany.com/GroupwareService/GroupwareService.asmx</soapServerURL>
  <calendarCachePeriod>600</calendarCachePeriod>
  <addressBookReturn>50</addressBookReturn>
  <maxAttachmentSizeinKB>2048</maxAttachmentSizeinKB>
  <calendarAutoSynch enabled="yes">
    <monthRange>2</monthRange>
```

# Collaboration とインスタント メッセージ機能の統合

インスタント メッセージ機能によって、ユーザーは、Yahoo! メッセンジャー クライアントに現在ログイン中のプロジェクトの共同制作者を確認できます。

Yahoo! メッセンジャーを Collaboration に統合するには、次の操作を実行する必要があります。

- config.xml の instant-messaging セクションの設定
- インスタント メッセージ機能を使用する各ユーザーへの [ インスタント メッセージの有無を示すアイコンの表示 ] アクティビティ権の付与

この節では、config.xml 設定ファイルにおけるインスタント メッセージ機能の統合のための設定について説明します。

表 5-7 インスタント メッセージ機能の統合用の config.xml のノード

ノードまたは属性	説明
instant-messaging enabled	このノードは、インスタント メッセージ機能を有効にするために使用されます。
presence-url	このノードは、ユーザーがオンラインかどうかを示すイメージを戻します。

表 5-7 インスタント メッセージ機能の統合用の config.xml のノード

ノードまたは属性	説明
send-url	このノードには、メッセージの送信元 URL が含まれます。 <i>\$user</i> 変数には、個々のユーザーの電子メール アドレスが含まれます。
contact-url	このノードには、メッセージを受信可能な URL が含まれます。 <i>\$user</i> 変数には、個々のユーザーの電子メール アドレスが含まれます。
presence-poll-interval	このノードには、プレゼンスのポーリング間隔の秒数が含まれます。

## [IM Handle] プロパティの設定

電子メール アドレスとは異なる IM ハンドル値をユーザーが持つ必要がある場合、以下の手順に従って、[IM Handle] プロパティを作成し、各ユーザー プロファイルのポータルの [ 一般情報 ] ページにそのプロパティを追加します。このプロパティを追加した後は、各ユーザーの IM ハンドルをユーザー プロファイルに追加することができます。また、各ユーザーが、独自にこの作業を実行できるようになります。

1. 管理者としてポータルにログインします。
2. [ 管理 | **Administrative Resources Folder** ] に移動します。[ オブジェクトの作成 ] ドロップダウン リストから [ **プロパティ** ] を選択します。
3. [ メイン設定 ] ページでは、デフォルトの値および選択をそのまま使用します。
4. [ **終了** ] をクリックします。  
[ オブジェクトの保存 ] ダイアログ ボックスが表示されます。
5. 管理リソース フォルダが選択されていることを確認し、このオブジェクトの名前を *IM Handle* とします。
6. [ **保存** ] をクリックします。
7. [ **閉じる** ] をクリックします。  
管理リソース フォルダに戻ります。

## Collaboration の統合

8. [ユーティリティの選択] ドロップダウン リストから [グローバル オブジェクト プロパティ マップ] を選択します。
9. メイン ページでユーザー オブジェクトの [編集] をクリックします。
10. [プロパティの選択] ダイアログ ボックスで、[IM Handle] プロパティを選択して [OK] をクリックします。  
メイン ページに戻ります。
11. [終了] をクリックします。
12. [ユーティリティの選択] ドロップダウン リストから、[ユーザー プロファイル マネージャー] を選択します。
13. [オブジェクト設定の編集] で、[ユーザー情報 - プロパティ マップ] リンクをクリックします。
14. IMUser ユーザー情報属性が [Email Address] プロパティに割り当てられている場合、以下の手順を順番に実行します。
  - プロパティの [編集] をクリックします。
  - 先頭のコンマも含めて *IMUser* を削除します。

[Email Address] プロパティに割り当てられているその他のユーザー情報属性は削除しないでください。

  - [Email Address] プロパティの [編集] をクリックし、編集できない状態に戻します。
15. [追加] をクリックします。
16. [プロパティの選択] ダイアログ ボックスで、[IM Handle] プロパティを選択して [OK] をクリックします。  
[ユーザー情報 - プロパティ マップ] ページに戻ります。
17. [IM Handle] プロパティの [編集] をクリックします。
18. *IMHandle* を削除し、*IMUser* と置換します。
19. [IM Handle] プロパティの [編集] をクリックし、編集できない状態に戻します。
20. [終了] をクリックします。
21. [管理 | Portal Resources Folder] に移動します。
22. [Portlet] リンクをクリックします。

23. [一般情報] ポートレット リンクをクリックします。
24. [ポートレットの編集] で次の処理を実行します。[一般情報] ページで [編集] をクリックします。  
[User Profile Portlet Configuration] ダイアログ ボックスが表示されます。
25. [プロパティの追加] をクリックします。
26. [IM Handle] プロパティ名を選択し、[OK] をクリックします。  
[User Profile Portlet Configuration] ダイアログ ボックスに戻ります。
27. [終了] をクリックします。  
[Edit Portlet: General Information] ページに戻ります。
28. [終了] をクリックします。  
[Portal Resources Folder] に戻ります。[IM Handle] プロパティがポータルของผู้utzer プロファイル、[一般情報] ページに追加されます。

## Microsoft Project のインポートの設定

次の設定パラメータを使用すると、Microsoft Project のインポートをカスタマイズできます。

**表 5-8 Microsoft Project のインポートのカスタマイズ用設定パラメータ**

ノードまたは属性	説明
project-import	Microsoft Project からのインポートに固有なパラメータが含まれます。
number-of-tasks-limit	インポート可能なタスクの合計数。デフォルトは、1000 です。

## プロジェクトの電子メール機能の設定

この節では、プロジェクトの電子メール機能を設定する方法について説明します。プロジェクトの電子メール機能を使用すると、ユーザーは次の処理を実行できます。

- プロジェクト内のディスカッションへのメッセージの電子メール送信
- プロジェクト内のフォルダへのドキュメントの電子メール送信
- メッセージ投稿通知への返信

この節では、以下の内容について説明します。

- [基本設定の実行](#)
- [例 : Collaboration への電子メールのリレー](#)

「Collaboration への電子メールのリレー」では、Collaboration を実行している Linux マシン上で `sendmail` を設定する例を示します。この例は、Collaboration と同じマシン上で動作している場合、そのメール ホストを設定するためのガイドラインとして使用することができます。

**注意：** グループウェアの統合は、プロジェクトの電子メール機能を使用するユーザーに対しては必要ありません。グループウェアの統合が必要になるのは、ユーザーが [5-13 ページの「Collaboration とグループウェアの統合」](#) に説明されている機能を使用する必要がある場合のみです。また、プロジェクトの電子メール機能を使用するために、プロジェクトからユーザーへの電子メール通知の生成および送信に使用される通知サービスは必要ありません。ただし、通知サービスが実行されていない場合、プロジェクトの電子メール機能の有用性は低くなります。

## 基本設定の実行

この節では、メール ホストと Collaboration を別のマシン上で実行している場合に、プロジェクトの電子メール機能を設定する方法について説明します。

プロジェクトの電子メール機能を使用するように Collaboration を設定するには、次の処理を行う必要があります。

- 組織内の IT 管理者またはネットワーク管理者が Collaboration を指定する DNS MX ( メール エクスチェンジ ) レコードを追加する。

- ユーザーの電子メール アドレスをポータルユーザー プロファイルに登録する。  
このタスクは、管理者またはユーザーのいずれかが実行します。ポータルユーザー プロファイルにおける電子メール アドレスは、大文字か小文字かも含めて、ユーザーの電子メール アドレスと完全に一致する必要があります。
- オプション: デフォルト値を使用しない場合、config.xml ファイルの email セクションで以下のノードを設定する。

表 5-9 プロジェクトの電子メール機能を設定するための config.xml のノード

ノード	説明
domain	電子メール ドメイン。mail.buttercut.plumimap.com などと指定します。ほとんどの場合、このノードは、Collaboration インストーラの実行時に設定しています。
connection-pool	受信接続用のソケット ハンドラの数。デフォルト値は 10 です。
mail-processors	受信電子メールの処理に使用されるスレッドの数。デフォルト値は 5 です。
maximum-message-size	受信電子メールの最大サイズ。-1 は、Collaboration がサイズのチェックを行わないことを示します。この場合、Collaboration API によって、メッセージの本文およびファイルに対してサイズ制限が施行されます。デフォルト値は -1 です。
authorized-connections	SMTP ハンドラに接続できるホストのカンマで区切られた名前または IP アドレス。この名前のリストは、セキュリティを確保するために作成することをお勧めします。このリストの例については、config.xml ファイルを参照してください。デフォルト値は * です。これは制限がないことを示します。
idle-timeout	受信接続がアイドル状態でいられる時間 ( 分単位 )。デフォルト値は 20 です。

## Collaboration の統合

以下に config.xml の email セクションの例を示します。

```
- <email enabled="@EMAIL_ENABLED@" port="25">
<domain>@EMAIL_DOMAIN@</domain>
<connection-pool>10</connection-pool>
<mail-processors>5</mail-processors>
<maximum-message-size>-1</maximum-message-size>
    <authorized-connections>*</authorized-connections>
<idle-timeout>20</idle-timeout>
```

## 例 : Collaboration への電子メールのリレー

電子メール ホストを Collaboration と同じマシン上で実行している場合、Collaboration に電子メールをリレーするように電子メール ホストを設定する必要があります。この節では、sendmail を設定して電子メールを Collaboration にリレーする例について説明します。この例は、現在使用している電子メール ホストを設定するためのガイドラインとして使用できます。

この例では、Collaboration はポート 2525 を使用します (Collaboration はデフォルトで sendmail が使用するポートと同じポート 25 を使用します。このため、Collaboration のポートは変更する必要があります)。

**注意：** 電子メール ホストを設定してメールを Collaboration にリレーするために必要な手順は、現在の実稼動環境に応じて、この例とは異なる場合があります。

## 前提条件

以下の前提条件では、sendmail を設定する前に完了しておくべきタスクの例を示しています。

1. sendmail-cf rpm パッケージをインストールする必要があります。このパッケージがインストールされているかどうかを確認するには、root として以下のコマンドを実行します。

```
rpm -qa | grep sendmail
```

結果は次のように表示されます。



```
sendmail-8.12.11-4.RHEL3.1
```

```
sendmail-cf-8.12.11-4.RHEL3.1
```

2. 現在のドメイン下に、サブゾーン / サブドメインを作成します。例えば、**collabmail.yourcompany.com** などと指定します。
3. 使用している **Collaboration** サーバーを指すホスト エントリを作成します。

```
MX      10      mail.collabmail.yourcompany.com
```

4. **MX** (メール エクスチェンジ) レコードを作成し、**\*@collabmail.yourcompany.com** に送信されたすべてのメールが、今作成したホスト レコードに配信されるようにします。

```
MX      10      mail.collabmail.yourcompany.com
```

上記の例の値 **10** は優先順位を表しており、この優先順位によって、より多くの **MX** レコードを指定できます。これによって、電子メールが優先順位の高いレコードに配信されます。

**注意：** 上記の手順 2 の代替指定方法は、**mx 10 X.X.X.X** (サブゾーン下) です。

## Sendmail の設定

以下の手順では、**sendmail** を設定して受信メールを **Collaboration** にリレーする例を示します。

1. **root** としてログインします。

2. **sendmail** プロセスを停止します。

```
/etc/rc.d/init.d/kudzu stop
```

```
/etc/rc.d/init.d/sendmail stop
```

```
/etc/rc.d/init.d/apmd stop
```

3. **relay-domains** ファイルが **etc/mail** にあることを確認します。

- a. ドメインを追加します。

```
[machine].[yourimap].com
```

例えば、**collab-x5.plumimap.com** などと指定します。

4. **etc/mail/access** ファイルを編集します。

- a. 以下の行を **access** ファイルに追加します。

## Collaboration の統合

```
To: [machine].[yourimap].com      RELAY
```

```
To: collab-x5.plumimap.com        RELAY
```

- b. 現在の端末から **access.db** ファイルを再度ハッシュ (hash) して更新します。

```
/usr/sbin/makemap hash /etc/mail/access.db < /etc/mail/access
```

5. 異なるポートを使用して Collaboration に電子メールをリレーするように **sendmail.mc** ファイルを編集します。

```
/etc/mail/sendmail.mc
```

- a. 以下の行をファイルの最後の **MAILER** 行の前に追加します。

```
FEATURE(`mailertable')  
define(`confRELAY_MAILER', `esmtplib')  
define(`RELAY_MAILER_ARGS', `TCP $h 2525')
```

- b. ファイル内で以下の行を検索します。

```
DAEMON_OPTIONS(`Port=smtp,Addr=127.0.0.1, Name=MTA')dnl
```

上記の行を次のようにコメントアウトします。

```
dnl DAEMON_OPTIONS(`Port=smtp,Addr=127.0.0.1, Name=MTA')dnl
```

- c. 端末で以下のように入力します。

```
m4 /etc/mail/sendmail.mc > /etc/mail/sendmail.cf
```

6. **mailertable** ファイルを以下のように編集します。

```
/etc/mail/mailertable
```

- a. 以下の行を **mailertable** ファイルに追加します。

```
[machine].[yourimap].com      relay:mail.[machine].[yourimap].com
```

次に例を示します。

```
Collab-x5.plumimap.com      relay:mail.[machine].plumimap.com
```

- b. 次に、端末で以下のように入力して、**mailertable.db** ファイルを再度ハッシュして更新します。

```
/usr/sbin/makemap hash /etc/mail/mailertable.db <  
/etc/mail/mailertable
```

7. **sendmail** を以下のように開始します。

```
/etc/rc.d/init.d/apmd start
```

```
/etc/rc.d/init.d/sendmail start
```

```
/etc/rc.d/init.d/kudzu start
```

8. Collaboration の **config.xml** ファイルを編集して、電子メールを有効にし、ポート 2525 を使用するようにします。

```
email enabled="yes" port="2525"
```

9. Collaboration を再起動します。

**collaboration.log** ファイルに、電子メール サービスがポート 2525 でエラーなしで開始されていることが示されます。

10. マシンのポートへの Telnet コマンドでは、以下のような結果が戻されます。

```
220 Collaboration 4.2 Build:198844.20050824 0720.0 SMTP Server (Messaging  
Server ) ready Wed, 24 Aug 2005 14:50:36 -0700 (PDT)
```

## Collaboration の電子メールのエラーの処理

ユーザーが電子メールを Collaboration プロジェクトに送信した際にエラーが発生した場合、Collaboration は次のように動作します。

- その電子メールを拒否し、以下を確認できない場合はエラー通知を返信しない。
  - その電子メールを送信したユーザーの ID
  - その電子メール アドレスの形式
- 以下を確認できた場合はエラー通知を返信する。
  - その電子メールを送信したユーザーの ID
  - その電子メール アドレスの形式

Collaboration が停止した場合、メール サーバーは、その電子メールをキューに格納し、処理を終える前に何回か再配信を試みます。Collaboration は、その電子メールを送信したユーザーにエラー通知を送信してから、復帰後にその電子メールを再配信します。

## Collaboration の統合

# 設定ファイルの処理

この付録では、インストール環境をカスタマイズするために編集可能な Collaboration の各設定ファイルの詳細について説明します。この章には次の節が含まれています。

- [Collaboration および通知サービスの設定ファイルの概要](#)
- [config.xml](#)
- [documentTemplates.xml](#)
- [filetypes.xml](#)
- [database.xml](#)

# Collaboration および通知サービスの設定 ファイルの概要

この節では、Collaboration および通知サービスの設定ファイルの概要について説明します。以下の表では、Collaboration の設定ファイルの基本概要を示します。

**表 A-1 Collaboration の設定ファイル**

Collaboration の設定 ファイル	説明
config.xml	Collaboration の主要な設定ファイルです。このファイルでは Collaboration のさまざまな詳細設定を設定できます。これには、Collaboration で使用される他のコンポーネント ( 検索、通知など ) への接続情報や、一括アップロード、WebDAV などの機能の詳細設定が含まれます。この設定ファイルはデフォルトで <PT_HOME>\ptcollab\4.2\settings\config にインストールされています。ここで、<PT_HOME> はデフォルトで C:\bea\alui です。詳細については、 <a href="#">A-5 ページの「config.xml」</a> を参照してください。
documentTemplates.xml	Collaboration で認識されるドキュメント テンプレートを設定します。この設定ファイルはデフォルトで <PT_HOME>\ptcollab\4.2\settings\config にインストールされています。ここで、<PT_HOME> はデフォルトで C:\bea\alui です。詳細については、 <a href="#">A-16 ページの「documentTemplates.xml」</a> を参照してください。
filetypes.xml	Collaboration におけるファイルタイプを表示します。この設定ファイルはデフォルトで <PT_HOME>\ptcollab\4.2\settings\config にインストールされています。ここで、<PT_HOME> はデフォルトで C:\bea\alui です。詳細については、 <a href="#">A-17 ページの「filetypes.xml」</a> を参照してください。
database.xml	Collaboration のデータベース設定を設定します。この設定ファイルは、Collaboration のインストール時に自動的に更新されます。この設定ファイルはデフォルトで <PT_HOME>\ptcollab\4.2\settings\config にインストールされています。ここで、<PT_HOME> はデフォルトで C:\bea\alui です。詳細については、 <a href="#">A-20 ページの「database.xml」</a> を参照してください。

**表 A-1 Collaboration の設定ファイル**

Collaboration の設定 ファイル	説明
dr.xml	<p>ドキュメント リポジトリ サービスへの接続を設定します。この設定ファイルはデフォルトで &lt;PT_HOME&gt;\ptcollab\4.2\settings\config にインストールされています。ここで、&lt;PT_HOME&gt; はデフォルトで C:\bea\alui です。</p> <p><b>注意：</b> dr.xml は、Collaboration のインストール時に自動的に更新されます。このファイルは変更しないでください。</p>
audit.xml	<p>Collaboration のログ機能およびプロファイリング機能を制御します。この設定ファイルはデフォルトで &lt;PT_HOME&gt;\ptcollab\4.2\settings\config にインストールされています。ここで、&lt;PT_HOME&gt; はデフォルトで C:\bea\alui です。</p> <p><b>注意：</b> このファイルのコンテンツは、Collaboration によって生成されます。変更しないでください。</p>
cache.xml	<p>Collaboration のキャッシュを管理します。この設定ファイルはデフォルトで &lt;PT_HOME&gt;\ptcollab\4.2\settings\config にインストールされています。ここで、&lt;PT_HOME&gt; はデフォルトで C:\bea\alui です。</p> <p><b>注意：</b> このファイルのコンテンツは、Collaboration によって生成されます。変更しないでください。</p>
cluster.xml	<p>クラスター化されたネットワーク環境でセットアップされる Collaboration の設定を設定します。この設定ファイルはデフォルトで &lt;PT_HOME&gt;\ptcollab\4.2\settings\config にインストールされています。ここで、&lt;PT_HOME&gt; はデフォルトで C:\bea\alui です。</p>

## 設定ファイルの処理

**表 A-1 Collaboration の設定ファイル**

Collaboration の設定 ファイル	説明
application.xml	Collaboration に対して、http ポート、https ポートなどの Web アプリケーション導入設定を設定します。この設定ファイルはデフォルトで <PT_HOME>\ptcollab\4.2\settings\config にインストールされています。ここで、<PT_HOME> はデフォルトで C:\bea\alui です。
object-migration.xml	Collaboration におけるオブジェクトの移行を制御します。この設定ファイルはデフォルトで <PT_HOME>\ptcollab\4.2\settings\config にインストールされています。ここで、<PT_HOME> はデフォルトで C:\bea\alui です。  <b>注意：</b> このファイルのコンテンツは、Collaboration によって生成されます。変更しないでください。

休日の作成、編集および削除については、[3-9 ページの「休日の作成、編集および削除」](#)を参照してください。

以下の表では、通知サービスの設定ファイルの基本概要を示します。

**表 A-2 通知サービスの設定ファイル**

通知サービスの 設定ファイル	説明
config.xml	通知サービスの主要な設定ファイル。このファイルでは、通知サービスのさまざまな設定を設定できます。この設定ファイルはデフォルトで <PT_HOME>\ptnotification\4.2\settings\config にインストールされています。ここで、<PT_HOME> はデフォルトで C:\bea\alui です。
database.xml	このファイルでは、通知サービスのデータベースを設定できます。この設定ファイルはデフォルトで <PT_HOME>\ptnotification\4.2\settings\config にインストールされています。ここで、<PT_HOME> はデフォルトで C:\bea\alui です。



表 A-2 通知サービスの設定ファイル

通知サービスの 設定ファイル	説明
audit.xml	<p>通知サービスのログギング機能およびプロファイリング機能を制御します。この設定ファイルはデフォルトで &lt;PT_HOME&gt;\ptnotification\4.2\settings\config にインストールされています。ここで、&lt;PT_HOME&gt; はデフォルトで C:\bea\alui です。</p> <p><b>注意：</b> このファイルのコンテンツは、Collaboration によって生成されます。変更しないでください。</p>
cache.xml	<p>通知サービスのキャッシュを管理します。この設定ファイルはデフォルトで &lt;PT_HOME&gt;\ptnotification\4.2\settings\config にインストールされています。ここで、&lt;PT_HOME&gt; はデフォルトで C:\bea\alui です。</p> <p><b>注意：</b> このファイルのコンテンツは、通知サービスによって生成されます。変更しないでください。</p>

## config.xml

以下の表では、Collaboration の config.xml ファイルの設定パラメータの詳細について説明しています。

**注意：** この表で説明されていないノードについては変更しないでください。

表 A-3 config.xml 内のノード

ノード	説明
portal version	所有ポータルバージョンを表示します。
audit	オーデイトのランタイム設定ファイルのファイル名。
database	データベース接続の設定ファイルのファイル名。
cache	管理されるキャッシュの設定ファイルのファイル名。
search enabled	Collaboration と Search Service との間の通信を有効または無効にします。有効値は <b>yes</b> および <b>no</b> です。

## 設定ファイルの処理

表 A-3 config.xml 内のノード

ノード	説明
servername	Search Service のホスト名。この値は、完全修飾ドメイン名である必要があります。
port	Search Service が通信を受付けるポート。
defaultLanguage	Search Service のデフォルト言語。
languages_dir	Search Service が言語情報を格納する場所のパス名。
textExtraction	テキスト抽出を行うために使用されるアプリケーションのパスとファイル名。
maxTextBytesToIndex	Search Service がインデックスする各オブジェクトの最大サイズ。
temp_dir	Search Service が使用する一時ディレクトリのパス名。
enableLogging	Search Service のログ機能を有効または無効にします。有効値は <b>true</b> および <b>false</b> です。
runReconcileThread	これは、Collaboration がインストールされているマシン上で <b>true</b> に設定する必要があります。ロード バランシング環境では、1 台を除く全てのサーバーで <b>false</b> に設定します。グローバル導入環境では、サテライト ノードでは <b>false</b> に設定し、マスター ノードの 1 台のみのサーバーで <b>true</b> に設定します。
realTimeIndexing	この値は、グローバル導入環境ではない場合、Collaboration がインストールされているすべてのマシン上で、 <b>true</b> に設定します。グローバル導入環境では、マスター ノードを含み、Collaboration がインストールされているすべてのマシン上で <b>false</b> に設定します。
fileTypeRegister	filetypes 設定ファイルのファイル名。
maxUploadMegaBytes	単一ファイルのアップロードの最大サイズ。
bulkUpload	一括アップロード機能を有効または無効にします。有効値は <b>yes</b> および <b>no</b> です。

表 A-3 config.xml 内のノード

ノード	説明
nonGatewayedUploads	<p>ポータル サーバーを通してアップロードがゲートウェイ処理されるかどうかを決定します。有効値は次のとおりです。</p> <p><b>yes</b> : アップロードはポータル サーバーを通してゲートウェイ処理されます。</p> <p><b>no</b> : アップロードはポータル サーバーを通してゲートウェイ処理されません。</p>
url	<p>Microsoft Word が Collaboration と通信するために使用する基本 URL。この属性は、enable が <b>true</b> に設定されている場合に使用されます。</p> <p><b>例</b> : http://collab.myco.com:8080/collabserver</p>
tokenBasedAuthentication	<p>トークンベースの認証が使用されるかどうかを決定します。通常の Collaboration の実装では、これらの値を変更する必要はありません。有効値は次のとおりです。</p> <p><b>true</b> : トークンベースの認証を有効にします。これがデフォルト値です。</p> <p><b>false</b> : トークンベースの認証を無効にします。この設定は、HTTP 通信がゲートウェイ処理されており、別の認証方法が使用されている場合のみ使用することができます。</p>
useClustering	<p>トークンベースの認証でのメッセージのクラスタリング ( ロード バランシングとも呼ばれる ) の使用を制御します。有効値は次のとおりです。</p> <p><b>yes</b> : メッセージのクラスタリングを有効にします。これがデフォルト値です。</p> <p><b>no</b> : メッセージのクラスタリングを無効にします。この設定は、メッセージのクラスタリングが不要なく、パフォーマンスを低下させる場合のみ使用します。</p> <p><b>注意</b> : Collaboration で基本クラスタリング機能が無効になっている場合、この設定は無視されます。したがって、useClustering は常時有効にしておくことをお勧めします。</p>

## 設定ファイルの処理

表 A-3 config.xml 内のノード

ノード	説明
maxWaitSeconds	Collaboration がクラスタ内の別のサーバーからの応答を待つ時間を決定します。この設定は、トークンベースの認証およびメッセージクラスタリング (ロード バランシング) が有効になっている場合のみ適用されます。 <b>デフォルト</b> : 30
webEdit	ウェブ編集を有効または無効にします。有効値は <b>yes</b> および <b>no</b> です。
nonGatewaysAccess	Microsoft Office と Collaboration との間の HTTP 通信が、ポータルを通してゲートウェイ処理されるかどうかを決定します。有効値は次のとおりです。 <b>yes</b> : HTTP 通信は、ポータルを通してゲートウェイ処理されます。これがデフォルト値です。 <b>no</b> : HTTP 通信は、ポータルを通してゲートウェイ処理されません。
serverURL	Microsoft Word が Collaboration との通信に使用する基本 URL。この属性は、enable が <b>true</b> に設定されている場合に使用されます。 <b>例</b> : http://collab.myco.com:8080/collabserver
truncateFileNames	WebDAV で表示されるファイル名で許可される文字数。この数を越えた文字は切り捨てられます。
clsid	COM オブジェクトのクラス ID を指定します。 <b>注意</b> : この値は変更しないでください。
fileSpec	配布ファイルの名前およびコンポーネントに関する情報を指定します。 <b>注意</b> : この値は、オブジェクトの最新バージョンを導入する必要がある場合以外は変更しないでください。
installOfficeToolsPopUp	Collaboration Office ツール アドイン インストーラを有効または無効にします。有効値は <b>yes</b> および <b>no</b> です。
webDAV	WebDAV の設定を格納します。

表 A-3 config.xml 内のノード

ノード	説明
fullWebDAVAccessToThisServer	<p>WebDAV の使用を有効または無効にします。有効値は次のとおりです。</p> <p><b>yes</b> : Collaboration が WebDAV 要求を受け付けます。これがデフォルト値です。</p> <p><b>no</b> : Collaboration が WebDAV 要求を拒否します。</p>
requestsAreGatewayed	<p>Windows Explorer と Collaboration との間の WebDAV 通信を有効または無効にします。有効値は <b>true</b> および <b>false</b> です。</p>
uiDisplaysServerConfigInfo	<p>Collaboration が [ ドキュメント ] タブの [ 新規   ウェブ フォルダ ] ダイアログを表示する方法を制御します。有効値は次のとおりです。</p> <p><b>yes</b> : [ ウェブ フォルダ ] ダイアログ ボックスを表示します。これがデフォルト値です。</p> <p><b>no</b> : [ ウェブ フォルダ ] ダイアログ ボックスを表示しません。</p>
useNonGatewayedURL	<p>[ ウェブ フォルダ ] ダイアログ ボックスでゲートウェイ処理されるネットワーク ドライブをマッピングする手順を表示するかどうかを決定します。</p> <p>有効値は次のとおりです。</p> <p><b>no</b> : [ ウェブ フォルダ ] ダイアログで、ゲートウェイを通して Windows Explorer と Collaboration との間をマッピングすることに関する情報が表示されます。これがデフォルト値です。</p> <p><b>yes</b> : [ ウェブ フォルダ ] ダイアログで、Windows Explorer と Collaboration との間を直接マッピングすることに関する情報を表示します。</p> <p><b>注意</b> : Windows Explorer と Collaboration との間の通信をゲートウェイ処理する場合、Collaboration のこのインスタンスは、WebDAV サービスとして機能し続けます。したがって、config.xml のこのインスタンスでは、<b>fullWebDAVAccessToThisServer.enabled</b> および <b>fullWebDAVAccessToThisServer.requestsAreGatewayed</b> を <b>true</b> に設定する必要があります。</p>
serverURL	<p>Collaboration が、直接 Windows Explorer と通信するように設定されている場合、WebDAV サービスとして稼動する Collaboration に基本 URL を設定します。</p>

## 設定ファイルの処理

表 A-3 config.xml 内のノード

ノード	説明
imageServer	Collaboration のイメージ、ヘルプ、および JavaScript が格納される Image Service のディレクトリへの相対パスを指定します。
baseURL	Collaboration で使用されるイメージ サービスの基本 URL。デフォルトで、このノードは空であり、Image Service が使用されます。このノードは空のままにしておくことをお勧めしますが、デバッグの目的や、Image Service 以外のイメージ サービスを指定する場合など、必要に応じてこのノードを使用できます。
images	イメージが格納される相対パス。
javascript	JavaScript のソース ファイルが格納される相対パス。
misc	その他のソース ファイルが格納される相対パス。
help	Collaboration オンライン ヘルプのファイルが格納される相対パス。
help508	508 モードのオンライン ヘルプのファイルが格納される相対パス。
portal_common	一般的なポータル イメージの場所。
applets	Java アプレットが格納される相対パス。
messaging	通知サービスと通信を行うための設定セクション。
notification	通知サービスを有効または無効にします。有効値は <b>yes</b> および <b>no</b> です。
host	通知サービスのホスト名。
port	通知サービスが通信を受付けるポート。
max-queue-size	一度にキューイングすることができる通知イベントの最大数。一般的に、この値を増加することはできませんが、送信される通知イベントの数を制限するために、この値を減らすことができます。
name	Collaboration のインストール時に指定される所有ポータルの名前。

表 A-3 config.xml 内のノード

ノード	説明
password secure	<p>所有ポータルパスワードを暗号化するかどうかを指定 ( および、パスワードがセキュアかどうかを表示 ) します。暗号化されたパスワードを使用している場合は、<b>yes</b> に設定します。</p> <p>有効値は次のとおりです。</p> <p><b>yes</b> : 所有ポータルパスワードが暗号化され、セキュアであることを示します。</p> <p><b>no</b> : 所有ポータルパスワードが暗号化されず、セキュアではないことを示します。</p>
gateway-entry https:	ポータルの主要アクセス ポイントを定義します。ポータルが <b>https</b> を使用するように設定されているが、ポータルの <b>PTSERVERCONFIG</b> テーブルに設定されていない場合、 <b>https</b> を強制的に使用するために、 <b>https</b> 属性を <b>yes</b> に設定することができます。
cluster	クラスタリング機能を有効または無効にします。有効値は <b>yes</b> および <b>no</b> です。
http-caching portlet	ポートレットのキャッシュ機能を有効または無効にします。有効値は <b>yes</b> および <b>no</b> です。
web-services	<b>Collaboration</b> のウェブ サービスを有効または無効にします。有効値は <b>yes</b> および <b>no</b> です。
administration	<b>Collaboration</b> の管理ページを有効または無効にします。
object-migration	オブジェクトの移行機能を有効または無効にします。有効値は <b>yes</b> および <b>no</b> です。
jscontrols	jscontrols コンポーネント用の設定。
imageServerConnectionURL	<b>Image Service</b> が <b>SSL</b> 上で実行されている場合に jscontrols にアクセスするための代替の非 <b>SSL URL</b> 。
debugLevel	jscontrols コンポーネント用の内部デバッグ レベル。
calendar-cache	カレンダーのキャッシュ機能を有効または無効にします。有効値は <b>true</b> および <b>false</b> です。

## 設定ファイルの処理

表 A-3 config.xml 内のノード

ノード	説明
calendar-trace	カレンダーの問題をデバッグするためのトレース機能を有効または無効にします。有効値は <b>true</b> および <b>false</b> です。BEA 技術サポートで指示されない限り、このノードは変更しないでください。
explorer	Collaboration エクスプローラのコントロールの設定。
serverSidePagination	項目が多数存在する場合にパフォーマンスを向上させるため、エクスプローラのサーバーサイドのページ設定を有効または無効にします。有効値は <b>yes</b> および <b>no</b> です。
upgrade	アップグレード後に古い config.xml ファイルのコピーを参照します。
browserMode	このノードは変更しないでください。BEA でサポートされているのは、通常モードのみです。
richTextEditor	ディスカッションのメッセージおよびアナウンス用にリッチ テキスト エディタを有効または無効にします。有効値は <b>yes</b> および <b>no</b> です。
activityRight	Collaboration のプロジェクトを管理するためにコミュニティの役割をチェックするかどうかを決定します。
checkCommunityRoles	<p>有効にすると、ユーザーがコミュニティ プロジェクトに対してプロジェクト リーダー アクセス権を所有しているかどうかを追加で確認されます。有効値は <b>true</b> および <b>false</b> です。</p> <p><b>注意：</b> このノードを有効にすると、プロジェクト エクスプローラのパフォーマンスが低下する場合があります。</p>
globalDeployment	<p>グローバル導入の機能を有効または無効にします。有効値は <b>yes</b> および <b>no</b> です。</p> <p><b>注意：</b> BEA では Collaboration 4.2 においてグローバル導入をサポートしていないため、このノードは変更しないことをお勧めします。</p>



表 A-3 config.xml 内のノード

ノード	説明
auto-create-community project	有効値は次のとおりです。 <b>yes</b> : Collaboration が、コミュニティ ページ上でコミュニティ プロジェクトを自動的に作成するようにします。 <b>no</b> : 自動的にコミュニティ プロジェクトを作成する機能が無効になります。
groupware	このノードは、グループウェアの統合を設定するために使用されます。有効値は次のとおりです。 <b>yes</b> : グループウェアの統合を有効にします。 <b>no</b> : グループウェアの統合を無効にします。この設定が使用された場合、この節の他の設定は全て無視されます。
type	使用されるバックエンド サーバーのタイプを示します。有効値は次のとおりです。 <b>notes</b> : Lotus Domino グループウェア サーバーを有効にします。 <b>exchange</b> : Microsoft Exchange グループウェア サーバーを有効にします。
soapServerURL	Collaboration のインストール時に指定される SOAP サーバーの URL を指定します。
timeoutInMilliSecond	Collaboration が SOAP サーバーからの応答を待つ時間を、ミリ秒単位で指定します。SOAP サーバーがこの時間内に応答しなかった場合、現在の操作は中止され、例外が返されます。 <b>注意</b> : パフォーマンスの制限や、大きな添付ファイルが Exchange を通して Collaboration に転送されることがあるため、この属性は、10000 (10 秒) を超える値に設定する必要があります。
calendarCachePeriod	マイ カレンダーのポートレットのグループウェア アイテムに対する、キャッシュのタイムアウト期間を、秒単位で指定します。マイ カレンダーのポートレットが更新された場合、Collaboration は、現在のアイテムがタイムアウトになっているかどうかを確認します。タイムアウトになっている場合、Collaboration は、バックエンド サーバーから項目を取得します。タイムアウトになっていない場合、項目はメモリから取得されます。
addressBookReturn	アドレス検索操作で返されるアドレスの最大数。

## 設定ファイルの処理

表 A-3 config.xml 内のノード

ノード	説明
maxAttachment SizeinKB	会議要求またはアポイントメントに含めることができる添付ファイルの KB 単位の最大サイズ。  <b>注意：</b> この制限は、アイテムが持つことができる全ての添付ファイルの合計サイズです。
calendarAutoSynch	ユーザーのプロジェクト カレンダーと Exchange または Notes のカレンダーとの自動同期を有効または無効にします。有効値は次のとおりです。 <b>yes</b> および <b>no</b> 。
monthRange	現在の月から開始して自動同期が適用される月数の範囲。
instant-messaging	このノードは、インスタント メッセージ機能を有効にするために使用されます。
presence-url	このノードは、ユーザーがオンラインかどうかを示すイメージを戻します。
send-url	このノードには、メッセージの送信元 URL が含まれます。 <i>\$user</i> 変数には、個々のユーザーの電子メール アドレスが含まれます。
contact-url	このノードには、メッセージを受信可能な URL が含まれます。 <i>\$user</i> 変数には、個々のユーザーの電子メール アドレスが含まれます。
presence-poll-interval	このノードには、プレゼンスのポーリング間隔の秒数が含まれます。
project-import	Microsoft Project からのインポートに固有なパラメータが含まれます。
number-of-tasks-limit	インポート可能なタスクの合計数。デフォルトは、1000 です。
email	このノードは、ユーザーが、現在使用しているグループウェアからプロジェクトに電子メールを直接送信できるように設定するために使用されます。
domain	電子メール ドメイン。次に例を示します。 <i>mail.buttercut.plumimap.com</i>
connection-pool	受信接続用のソケット ハンドラの数。
mail-processors	受信電子メールの処理に使用されるスレッドの数。

表 A-3 config.xml 内のノード

ノード	説明
maximum-message-size	受信電子メールの最大サイズ。-1 は、Collaboration がサイズのチェックを行わないことを示します。この場合、Collaboration API によって、メッセージの本文およびファイルに対してサイズ制限が施行されます。
authorized-connections	SMTP ハンドラに接続できるホストのカンマで区切られた名前または IP アドレス。この名前のリストは、セキュリティを確保するために作成することをお勧めします。このリストの例については、config.xml ファイルを参照してください。
idle-timeout	受信接続がアイドル状態でいられる時間 ( 分単位 )。
transaction-manager	このノードには、データベース固有の設定が含まれます。データベースに習熟したユーザーのみ、この設定を変更してください。

# documentTemplates.xml

**documentTemplates.xml** に項目を追加することによって新しい Microsoft Office ドキュメントを作成する際に、ユーザー インタフェースに表示されるシステムワイドなドキュメント テンプレートを定義することができます。デフォルトで、このファイルには、Microsoft Office ドキュメント用の空のドキュメント テンプレートのみが含まれています。項目を追加することによって、カスタムのドキュメント テンプレートがインタフェースに表示されるようにすることができます。

以下の表では、Collaboration の documentTemplates.xml ファイルの設定パラメータの詳細について説明しています。

表 A-4 documentTemplates.xml のノード

ノード	説明
templateFile cache	<PT_HOME>\ptcollab\<version>\settings\documentTemplates に格納されているファイルの名前。有効値は次のとおりです。 <b>True</b> : 小さなサイズのファイルをメモリでキャッシュするように設定します。 <b>False</b> : 非常に大きなサイズのファイルをメモリでキャッシュしないように設定します。
fileType	inPlaceEdit が有効にされている filetypes.xml の 1 つのファイルタイプの名前。
displayString	グラフィカルユーザー インタフェースのドロップダウン リストで表示される文字列。このノードは、直後に示すフィールドが空でない限り使用されません。
displayStringIndex	ドロップダウン リストで使用する文字列の Collaboration ローカライズ文字列ファイルへのインデックス。このフィールドが空でない場合、直前に示したフィールドは使用されません。
defaultDocName	このテンプレートで作成された新しいドキュメントのデフォルト名。このノードは、直後に示すフィールドが空でない限り使用されません。
defaultDocNameIndex	このテンプレートで作成されたドキュメントのデフォルト名として使用する文字列の Collaboration ローカライズ文字列ファイルへのインデックス。このフィールドが空でない場合、直前に示したフィールドは使用されません。

# filetypes.xml

導入システムで使用するドキュメント タイプに対応するファイルタイプを定義することができます。**filetypes.xml** 設定ファイルに新しいファイルタイプを追加することができます。

ファイルタイプを作成することにより、インデックスおよび検索をさらにコントロールすることが可能になります。各ファイルタイプに対してアイコンを指定することもできるので、**Collaboration** のユーザー インタフェースをカスタマイズすることができます。次のドキュメント タイプについては、ファイルタイプがデフォルトで定義されています。

- HTML
- Microsoft Excel
- Microsoft PowerPoint
- Microsoft Project
- Microsoft Word
- Microsoft Visio
- PDF
- テキスト
- zip

新しいファイルタイプを定義するには、**filetypes.xml** に新しいエントリを作成する必要があります。項目は、ユーザー インタフェースに表示される順番に配置します。各ファイルタイプに対して、複数のコンテンツ タイプおよび拡張子を定義することができます。優先するコンテンツ タイプおよび拡張子を最初に定義する必要があります。**filetypes.xml** の内容を変更する際は、以下のガイドラインに従ってください。

- <UNKNOWN index> ノードを変更しない。ただし、その他のノードを変更して、新しい項目を追加することはできます。
- 項目は、ドロップダウン リストに表示される順番に配置する。
- 各インデックスにおいて、複数の **contentType** および **extension** フィールドを使用できる。
- 優先するコンテンツ タイプを各インデックスのリストの先頭に配置する。

## 設定ファイルの処理

- 複数のファイルタイプ項目に同じコンテンツ タイプまたは拡張子が使用されないようにする。

以下の表では、Collaboration の filetypes.xml ファイルの設定パラメータの詳細について説明しています。

**表 A-5 filetypes.xml のノード**

ノード	説明
UNKNOWN index	<b>注意：</b> このノードまたはそのサブノードは変更しないでください。
html index	html ドキュメントを検索用にインデックス設定するかどうかを指定します。有効値は <b>yes</b> および <b>no</b> です。
msexcel index	Microsoft Excel ドキュメントを検索用にインデックス設定するかどうかを指定します。有効値は <b>yes</b> および <b>no</b> です。
mspowerpoint index	Microsoft PowerPoint ドキュメントを検索用にインデックス設定するかどうかを指定します。有効値は <b>yes</b> および <b>no</b> です。
msproject index	Microsoft Project ドキュメントを検索用にインデックス設定するかどうかを指定します。有効値は <b>yes</b> および <b>no</b> です。
msword index	Microsoft Word ドキュメントを検索用にインデックス設定するかどうかを指定します。有効値は <b>yes</b> および <b>no</b> です。
msvisio index	Microsoft Visio ドキュメントを検索用にインデックス設定するかどうかを指定します。有効値は <b>yes</b> および <b>no</b> です。
pdf index	pdf ドキュメントを検索用にインデックス設定するかどうかを指定します。有効値は <b>yes</b> および <b>no</b> です。
text index	txt ドキュメントを検索用にインデックス設定するかどうかを指定します。有効値は <b>yes</b> および <b>no</b> です。
gzip index	.zip ファイルを検索用にインデックス設定するかどうかを指定します。有効値は <b>yes</b> および <b>no</b> です。
displayString	displayStringIndex が存在しない場合、当該タイプのドキュメントを記述する際に、この文字列がグラフィカル ユーザー インタフェース内で直接使用されます。

表 A-5 filetypes.xml のノード

ノード	説明
shortcutDisplayString	shortcutDisplayStringIndex が存在しない場合、当該タイプのドキュメントのショートカットを記述する際に、この文字列がグラフィカルユーザー インタフェース内で直接使用されます。
displayStringIndex	displayStringIndex 項目が存在する場合、Collaboration のローカル言語ファイルへのキーとして使用されます。
templateDisplayString	templateDisplayStringIndex が存在しない場合、当該タイプのドキュメント テンプレートを記述する際に、この文字列がグラフィカルユーザー インタフェース内で直接使用されます。
shortcutDisplayStringIndex	shortcutDisplayStringIndex 項目が存在する場合、Collaboration のローカル言語ファイルへのキーとして使用されます。
templateDisplayStringIndex	templateDisplayStringIndex 項目が存在する場合、Collaboration のローカル言語ファイルへのキーとして使用されます。
portalDisplayStringIndex	この文字列は、ポータルのローカル言語ファイルへのキーとして使用されます。結果の文字列は、[ 検索結果 ] ページに表示されます。
imageFile	<PT_HOME>\ptimages\imageserver\plumtree\collab\private\img に格納されているファイルアイコンの名前。
shortcutImageFile	<PT_HOME>\ptimages\imageserver\plumtree\collab\private\img に格納されているファイル ショートカット アイコンの名前。
templateImageFile	<PT_HOME>\ptimages\imageserver\plumtree\collab\private\img に格納されているファイル テンプレート アイコンの名前。
contentType	当該ファイルタイプの、ブラウザに送信される Content-Type ヘッダの値。各 fileType ノードには複数の contentType サブノードを指定できますが、同じコンテンツタイプを複数のファイルタイプで使用することはできません。
extension	当該ファイルタイプのファイル拡張子。各 fileType ノードには複数の extension サブノードを指定できますが、同じ拡張子を複数のファイルタイプで使用することはできません。

設定ファイルの処理

表 A-5 filetypes.xml のノード

ノード	説明
webEdit	当該ファイルタイプがウェブ編集可能かどうかを指定します。本格的な変更をコードに加えない限り、Microsoft Office アプリケーションのみがウェブ編集可能です。有効値は <b>yes</b> および <b>no</b> です。
appCode	ウェブ編集セッションでドキュメントを開くアプリケーションを表します。有効値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"><li>• 1 (Microsoft Word)</li><li>• 2 (Microsoft Excel)</li><li>• 3 (Microsoft PowerPoint)</li></ul>

database.xml

この節では、database.xml 内の <linked-database-alias> ノードについて説明します。

Collaboration で SQL サーバー データベースを使用する際、<linked-database-alias> ノードは次のように設定する必要があります。

```
<linked-database-alias>PORTAL_DB_NAME.PORTAL_DB_OWNER.</linked-database-alias>
```

linked-database-alias では両方のピリオド (.) が必要です。PORTAL\_DB\_OWNER は、ポータルのテーブルを作成したデータベースの所有者である必要があります。データベースに対して db\_owner 権限を持つことは適切ではありません。

適切なユーザーを使用していることを確認するには次の手順を実行します。

1. SQL Server Enterprise Manager 内のポータル データベースを開きます。
2. [Tables] をクリックします。
3. テーブルの [Owner] 列に表示されているログイン名をチェックします。このログイン名が、<linked-database-alias> ノードに指定する所有者です。  
  
sa ログインを使用してポータル テーブルを作成している場合、データベース所有者は dbo です。これを確認するには、Enterprise Manager でデータベース所有者を確認します。



**注意：** database.xml を編集する場合、変更を適用するために Collaboration を停止してから起動する必要があります。

## 設定ファイルの処理

# 索引

## A

### ALI Logging Spy

設定、Collaboration, 3-30  
フィルタの設定, 3-32

### API Service、診断テスト, 3-4

application.xml, 3-27, A-4

audit.xml

Collaboration, 3-26, A-3

通知サービス用, A-5

## B

### Bulk Upload

有効化, 3-7

### Bulk Upload (一括アップロード)

クライアントの必要条件, 3-8

## C

cache.xml

Collaboration, 3-27, A-3

通知サービス用, A-5

cluster.xml, 3-27, A-3

### Collaboration

定義, 2-1

場所、設定ファイル, 3-25

バックアップと復元, 3-33

[Collaboration Notification] ページ, 3-13

Collaboration 管理ユーティリティ

[Collaboration Notification] ページ, 3-13

[Search Service] ページ, 3-14

アクセス方法, 3-2

[ 休暇 ] ページ, 3-9

[ グループウェア サーバー ] ページ, 3-10

[ 診断 ] ページ, 3-2

[ その他の設定 ] ページ, 3-4

[ ディレクトリへの発行 ] ページ, 3-9

[ ポータル アクセス ] ページ, 3-15

Collaboration クローラのコンテンツ ソース , 3-16

[Collaboration 個人プロジェクトの所有], 3-22

Collaboration データベース、検索インデック

スの調整, 3-14

[Collaboration の管理 ], 3-22

[Collaboration の設定 ] ページ, 3-23

[Collaboration プロジェクトの管理 ], 3-22

Collaboration プロファイル ポートレット, 2-7

[Collaboration への一括アップロード ], 3-22

[Collaboration リソース ] ページ, 4-19

collaboration.log, 3-13, 3-17, 3-28

config.xml

詳細な説明、ノード, A-5

設定、Microsoft Project のインポート, 5-23

設定、インスタント メッセージ機能, 5-20

設定、ウェブ フォルダ, 5-7

設定、ウェブ編集, 5-10

設定、グループウェアの統合, 5-18

定義、通知サービス用, A-4

## D

database.xml

linked-database-alias ノード, A-20

定義、Collaboration 用, 3-26, A-2

定義、通知サービス用, A-4

[Document Repository Service]

診断テスト, 3-3

documentTemplates.xml, A-16

Domino、Lotus Domino を参照

dr.xml, 3-26, A-3

## E

Exchange、Microsoft Exchange を参照

## F

filetypes.xml, A-17

Front Page サーバー エクステンション

無効化、ウェブ フォルダ, 5-3

無効化、ウェブ編集, 5-9

## 索引

### I

#### IIS

使用、ウェブ フォルダ , 5-3

使用、ウェブ編集 , 5-9

[IM Handle] プロパティ , 5-21

IM、インスタント メッセージ機能を参照

Image Service, 2-3

### J

JSControls、診断テスト , 3-4

### L

linked-database-alias ノード , A-20

Linux、グループウェア サーバーの使用 , 3-13

Logging Spy、ALI Logging Spy を参照

Lotus Domino

グループウェア サーバーも参照

設定、Collaboration の統合 , 5-16

### M

Microsoft Exchange

グループウェア サーバーも参照

設定、Collaboration の統合 , 5-15

### O

object-migration.xml, 3-27, A-4

### P

PT\_HOME の例 , 3-13

### S

[Search Service]

診断テスト , 3-3

Search Service

Collaboration データベースとのインデッ

クスの調整 , 3-14

再作成、コレクション , 3-14

定義 , 2-4

表示、状態 , 3-14

[Search Service] ページ , 3-14

### U

UNIX、グループウェア サーバーの使用 , 3-13

### W

WebDAV

定義 , 5-2

有効化 , 3-6

Windows 2000、ウェブ フォルダのマップ , 5-5

Windows 2003、ウェブ フォルダのマップ , 5-6

Windows XP、ウェブ フォルダのマップ , 5-6

### Z

zip ダウンロード、有効化 , 3-8

### あ

[アーカイブされたプロジェクト] フォルダ , 4-18

アカウントの設定、Collaboration の設定を参照

アクセス レベル , 3-20

アクティビティ権

説明 , 3-22

追加、ウェブ フォルダの使用 , 5-3

付与 , 3-22

アプリケーション ビュー、プロジェクトのアプリケーション ビューを参照

### い

一括アップロード

アクティビティ権 , 3-22  
 [ インスタント メッセージの有無を示すアイコンの表示 ], 3-22  
 インスタント メッセージ  
   アクティビティ権 , 3-22  
 インスタント メッセージ機能  
   設定ファイル、統合用の設定 , 5-20  
 インストール ディレクトリ、Search Service, 3-14

## う

ウェブ フォルダ  
   アクティビティ権、マップ用 , 3-22  
   設定ファイルの設定 , 5-7  
   追加、使用するためのアクティビティ権 , 5-3  
   マップ , 5-5  
 ウェブ編集  
   使用、IIS, 5-9  
   設定 , 5-9  
   有効化 , 3-6

## え

エラー  
   動作、プロジェクトの電子メール , 5-29  
   場所、クローラのジョブに関するエラー情報 , 3-17

## お

オブジェクト、Search Service で現在インデックスされている , 3-14

## か

書き込みアクセス レベル , 3-21  
 稼動時間、Search Service, 3-14  
 カレンダー  
   権限 , 3-21  
   設定、同期 , 3-24

[ カレンダーの同期 ] ページ , 3-24  
 管理、Collaboration 管理ユーティリティを参照  
 管理アクセス レベル , 3-21

## き

基準日、プロジェクトのテンプレート基準日を参照  
 機能エリア , 4-7  
 [ 休暇 ] ページ , 3-9

## く

グループ、プロジェクトへの追加 , 4-13  
 グループウェア サーバー  
   使用、Linux および Unix, 3-13  
   追加 , 3-10  
   テスト , 3-12  
 [ グループウェア サーバー ] ページ , 3-10

## け

権限  
   カレンダー , 3-21  
   ディスカッション , 3-21  
   ドキュメント , 3-21  
   フォルダ , 3-21  
   変更、デフォルト , 4-14

## こ

[ 購読 ] ページ , 3-24  
 個人プロジェクト  
   アクティビティ権、所有用 , 3-22  
   制限、サイズ , 3-5  
   付与、アクティビティ権 , 3-5  
   有効化 , 3-5  
 ごみ箱用のシステム フォルダ , 4-12  
 コミュニティ ポートレット , 2-6  
 コミュニティ メンバー、プロジェクトへの追加 , 4-13

## 索引

コンテンツ クローラ、お勧めの設定, 3-17

## し

実行待ちのインデックス要求, 3-14

自動同期, 5-17

所有ポータル

定義, 3-15

変更, 3-15

診断

アクセス、ポータルの停止時, 3-4

種類, 3-3

チェック, 3-2

チェックするタイミング, 3-2

[ 診断 ] ページ, 3-2

## せ

セキュリティ

アクセス レベル, 3-20

アクティビティ権, 3-22

定義, 3-19

定義、プロジェクト テンプレート, 4-17

デフォルト セキュリティ、プロジェクト, 3-23

役割, 3-19

## そ

[ その他の設定 ] ページ, 3-4

## た

タスク リスト、権限, 3-21

## ち

[ チェックイン担当 ] プロパティ, 3-18

## つ

通知

有効化、ポータル グループ, 3-6

通知サービス, 2-3

概要、設定ファイル, A-4

診断テスト, 3-3

## て

ディスカッション、権限, 3-21

ディスカッション メッセージ、サイズの制限, 3-9

[ ディレクトリへの発行 ] ページ, 3-9

データのシフト方法, 4-16

データベース

Collaboration, 2-2

ポータル, 2-2

データベース、Collaboration データベースを参照

デバッグ, 3-32

デフォルト

1 つのファイルのアップロード, 3-9

Collaboration によるポータルとの同期, 4-9

アクセス レベル, 3-20

検索する最大レベル数, 3-17

個人プロジェクトのサイズ, 3-5

選択、プロジェクト テンプレートの言語, 4-15

選択、プロジェクトの言語, 4-7

ディスカッション メッセージ サイズ, 3-9

プロジェクト ゲスト権限, 3-20

プロジェクト サイズ, 3-4

プロジェクト セキュリティ, 3-23

プロジェクト メンバー権限, 3-20

プロジェクト リーダー権限, 3-19

変更、役割の権限, 4-14

ポータル管理者の役割のメンバーシップ, 3-19

未使用のプロジェクト フォルダを非表示にする, 3-6

テンプレート、プロジェクト テンプレートを参照

## と

- ドキュメント
  - アクティビティ権、複数ファイルのアップロード用, 3-22
  - 権限, 3-21
  - 制限、アップロードのサイズ, 3-9
  - 有効化、zip ダウンロード, 3-8
- ドキュメント リポジトリ サービス
  - 定義, 2-4
  - dr.xml、定義, 3-26, A-3

## な

- ナレッジ ディレクトリ
  - 設定、ドキュメント プロパティ, 3-18
  - 発行に関する Collaboration の設定, 3-9

## は

- バックアップと復元、Collaboration, 3-33
- ハンドル、ユーザーの設定, 5-21

## ひ

- [ 表示の設定 ] ページ, 3-24

## ふ

- ファイル、ドキュメントを参照
- フォルダ
  - 権限, 3-21
  - プロジェクト フォルダも参照
- プロジェクト
  - アーカイブ, 4-18
  - アクティビティ権、管理用, 3-22
  - 個人プロジェクトも参照
  - 移動、プロジェクト フォルダ, 4-11
  - エクスポート, 4-19
  - 管理、プロジェクト エクスプローラ, 4-8
  - 作業、設定時に実行, 4-8
  - 削除, 4-11

- 削除、ユーザー, 4-14
- 削除されたプロジェクトのシステムからの削除, 4-12
- 作成, 4-6
- 指定、最大サイズ, 3-4
- 設定、インポート, 5-23
- 設定、機能エリア, 4-7
- 追加、ユーザー, 4-13
- 定義, 4-2
- 動作、電子メールのエラー, 5-29
- 取り消し、削除, 4-12
- 編集、プロパティ, 4-9
- リストア, 4-19
- プロジェクト エクスプローラ
  - 管理、プロジェクト, 4-8
  - 定義, 4-2
- プロジェクト ゲスト, 3-20
- プロジェクト テンプレート
  - 作成, 4-15
  - 設定、基準日, 4-16
  - 定義、セキュリティ, 4-17
- プロジェクトのアプリケーション ビュー, 4-5
- プロジェクトの電子メール機能
  - 処理、エラー, 5-29
  - 設定, 5-24
- プロジェクトのテンプレート基準日, 4-16
- プロジェクト フォルダ
  - アクティビティ権、管理用, 3-22
  - 移動、プロジェクト, 4-11
  - 削除, 4-11
  - 作成, 4-10
  - 非表示、未使用, 3-6
- プロジェクト メンバー, 3-20
- プロジェクト リーダー, 3-19

## へ

- 編集アクセス レベル, 3-21

## 索引

### ほ

#### ポータル

Collaboration へのアクセス権の付与, 3-15

定義, 2-2

データベース, 2-2

[ ポータル アクセス ] ページ, 3-15

ポータル グループ, 3-6

ポータル グループ通知, 3-6

#### ポートレット

コミュニティ ポートレットを参照

マイ ページ ポートレットを参照

### ま

マイ ページに追加、有効化, 3-6

マイ ページ ポートレット, 2-7

### め

メッセージ、ディスカッション メッセージを参照

### や

#### 役割

説明, 3-19

変更、デフォルト権限, 4-14

### ゆ

#### ユーザー

削除、プロジェクト, 4-14

追加、プロジェクト, 4-13

付与、アクティビティ権, 3-22

### よ

読み取りアクセス レベル, 3-21

### ろ

#### ログ機能

設定、ALI Logging Spy, 3-30

設定、Logging Utilities, 3-28